

【コミュニケーション情報学科専門科目】

教育課程	7-1
専門科目の概要	7-2
コミュニケーション論入門	第1学年 7-6
ビジネス事情	第1学年 7-7
情報基礎	第1学年 7-8
ビジュアル情報基礎	第1学年 7-9
経営情報入門	第2学年 7-10
情報基礎演習	第2学年 7-11
ビジュアル情報演習	第2学年 7-12
コミュニケーション論	第2学年 7-13
簿記入門	第3学年 7-14
経営入門	第3学年 7-15
経営数学入門	第3学年 7-16
経営情報演習	第3学年 7-17
経営情報システム基礎	第3学年 7-18
情報処理基礎	第3学年 7-19
情報処理演習	第3学年 7-20
言語コミュニケーション論	第3学年 7-21
ビジネス事情演習	第3学年 7-22
セミナー	第4学年 7-23
経営学	第4学年 7-24
確率統計学	第4学年 7-25
経営数学演習 I	第4学年 7-26
経済学演習 I	第4学年 7-27
経営情報システム演習	第4学年 7-28
異文化コミュニケーション入門	第4学年 7-29
非言語コミュニケーション	第4学年 7-30
ビジネス英語入門	第4学年 7-31
プログラミング基礎	第4学年 7-32
プログラミング演習	第4学年 7-33
マーケティング論	第4学年 7-34
財務会計	第4学年 7-35
原価計算	第4学年 7-36
実務研修	第4学年 7-37
卒業研究	第5学年 7-38
パブリック・スピーキング II	第5学年 7-39
ビジネス・ライティング II	第5学年 7-40
情報メディア演習	第5学年 7-41
企業論	第5学年 7-42
国際経済	第5学年 7-43
マーケティング	第5学年 7-44
視聴覚情報概論	第5学年 7-45

情報学専攻

言語文化	第5学年 7-46
国際金融論	第5学年 7-47
広告・広報メディア概論	第5学年 7-48
貿易実務	第5学年 7-49
情報システム論	第5学年 7-50
ビジネスと法律	第5学年 7-51
社会調査	第5学年 7-52
文献講読	第5学年 7-53
文献講読	第5学年 7-54
第2外国語Ⅲ	第5学年 7-55
第2外国語Ⅲ	第5学年 7-56
ビジネス英語Ⅱ	第5学年 7-57
第2外国語Ⅳ	第5学年 7-58
第2外国語Ⅳ	第5学年 7-59
情報特論Ⅱ	第5学年 7-60

コミュニケーションの専門科目  
情報学

コミュニケーション  
情報学

平成20年度学年別教育課程表

【専門科目】

コミュニケーション情報学科

授業科目	単位数	学年別					備考
		1	2	3	4	5	
コミュニケーション論入門	2	2					必修得科目
セミナー	2				2		必修得科目
卒業研究	6					6	必修得科目
ビジネス事情	1	1					
情報基礎	2	2					
ビジュアル情報基礎	2	2					
経営情報入門	2		2				
情報基礎演習	2		2				
ビジュアル情報演習	1		1				
コミュニケーション論	2		2				
簿記入門	2			2			
経営学入門	2			2			
経営情報演習	2			2			
経営情報システム基礎	2			2			
情報処理基礎	2			2			
情報処理演習	2			2			
言語コミュニケーション	2			2			
経営学	2				2		
確率統計学	2				2		
経営数学演習Ⅰ	2				2*		
経済学演習Ⅰ	2				2*		
経営情報システム演習	2				2*		
異文化コミュニケーション入門	2				2*		
非言語コミュニケーション	2				2		
ビジネス英語入門	2				2		
プログラミング基礎	2				2		
プログラミング演習	2				2		
マーケティング論	2				2		2科目選択
財務会計	2				2		
原価計算	2				2		
パブリック・スピーキングⅡ	2					2	
ビジネス・ライティングⅡ	2					2	
情報メディア演習	2					2*	
企業論	2					2	
国際経済	2					2*	
マーケティング	2					2*	
視覚情報概論	2					2*	
言語文化	2					2	
国際金融論	2					2	
広告・広報メディア概論	2					2	
貿易実務論	2					2	
情報システム論	2					2	
ビジネスと法律	2					2	5科目選択
社会調査	2					2	
文献講読	2					2	
第2外国語Ⅲ	2					2	
ビジネス英語Ⅱ	2					2	
第2外国語Ⅳ	2					2	
開設単位小計	100	7	7	16	28	42	
選択科目							
ビジネス事情演習Ⅱ	1			1			集中講義
情報特論Ⅱ	1					1	
実務研修	1				1		
開設単位小計	3	0	0	1	1	1	
専門科目							
開設単位合計	103	7	7	17	29	43	
修得可能単位数	89	7	7	17	25	33	
一般科目							
開設単位合計	83	24	24	18	12	5	
修得可能単位数	83	24	24	18	12	5	
合計							
開設単位合計	186	31	31	35	41	48	
修得可能単位数	172	31	31	35	37	38	

(注) \*印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

# 専門科目の概要 (平成13年度以降入学者用教育課程)

コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
		コミュニケーション論(2) 心理学入門(2)	人間関係論(2)	視聴覚情報概論(2)
			パブリックスピーキングⅠ(2) ビジネスライティングⅠ(2)	パブリックスピーキングⅡ(2) ビジネスライティングⅡ(2)
			時事英語(2) ビジネス英語Ⅰ(2)	文献講読(2) ビジネス英語Ⅱ(2)
			第2外国語Ⅰ(2) 第2外国語Ⅱ(2)	第2外国語Ⅲ(2) 第2外国語Ⅳ(2)
				言語文化(2)
情報基礎(2) 情報基礎演習(3)	情報処理(2) 情報処理演習(2)	情報統計(2) 情報コミュニケーション(2)(2) 情報コミュニケーション演習(2) 情報メディア論(2)	プレゼンテーション(2) プログラミング言語(2)	情報メディア演習(2) 情報システム論(2)
	マルチメディアⅠ(1)	マルチメディアⅡ(1)	情報特論Ⅰ(1) 確率統計(2)	情報特論Ⅱ(1)
図学(2) デザイン(2)	デザイン演習(2) ビジュアル情報(2)(2)			広告・広報メディア論(2)
時事問題(1)	時事問題(1)	財務会計(2) マクロ・ミクロ経済学(2)	経営学(2) 知的所有権(2) 会計学(2)	企業論(2) 国際経済(2) マーケティング(2) 国際金融論(2) 貿易実務(2) ビジネスと法律(2) 社会調査(2)
		セクレタリー(1)	国際関係論(2) 実務研修(1)	
			ゼミナール(1)(2)	卒業研究(8)
課 題 演 習 (1~2)				

必修科目   
  選択科目   
 ( ) 単位数

# 専門科目の概要 (平成17年度以降入学者用教育課程)

## コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
				文献講読(2)
			ビジネス英語入門(2)	ビジネス英語演習(2)
コミュニケーション論入門(2)	コミュニケーション論(2)	言語コミュニケーション(2)		
			非言語コミュニケーション(2)	
			異文化コミュニケーション入門(2)	異文化コミュニケーション演習(2)
ビジュアル情報基礎(2)	ビジュアル情報演習(2)	情報処理基礎(2)	プログラミング基礎(2)	
情報基礎(2)	情報基礎演習(2)	情報処理演習(2)	プログラミング演習(2)	
				情報工学特講(1)
				情報システム(2)
				情報システム演習(2)
				情報創造セミナー(2)
		経営情報システム基礎(2)	経営情報システム演習(2)	
			確率統計学(2)	確率統計学演習(2)
				管理工学(2)
		経営数学入門(2)	経済学演習 I (2)	経営数学演習 II (2)
	経営情報入門(2)	経営情報演習(2)		
ビジネス時事 I (2)	ビジネス時事 II (1)	ビジネス事情演習(1)	経済学演習 I (2)	ビジネス創造セミナー(2)
				経済学演習 II (2)
				国際経営論(2)
				経営戦略論(2)
		経営入門(2)	経営学(2)	
				組織論(2)
			マーケティング論(2)	
			原価計算(2)	
		簿記入門(2)		
			財務会計(2)	
				会計理論(2)
			実務研修(1)	
			セミナー(2)	卒業研究(6)

必修科目   
  選択科目   
 ( ) 単位数

# 専門科目の概要 (平成19年度入学者用教育課程)

コミュニケーション情報学科

第 1 学 年 | 第 2 学 年 | 第 3 学 年 | 第 4 学 年 | 第 5 学 年

			ビジネス英語入門(2)	ビジネス英語演習(2)
コミュニケーション論入門(2)	コミュニケーション論(2)	言語コミュニケーション(1)		
			非言語コミュニケーション入門(2)	
			異文化コミュニケーション入門(2)	異文化コミュニケーション演習(2)
ビジュアル情報基礎(2)	ビジュアル情報演習(1)	情報処理基礎(2)	プログラミング基礎(2)	
情報基礎(2)	情報基礎演習(2)	情報処理演習(1)	プログラミング演習(2)	
				情報工学特講(1)
				情報システム(2)
				情報システム演習(2)
				情報創造セミナー(2)
		経営情報システム基礎(2)	経営情報システム演習(1)	
			確率統計学(2)	確率統計学演習(2)
				管理工学(2)
		経営数学入門(2)	経営数学演習 I (1)	経営数学演習 II (2)
	経営情報入門(2)	経営情報演習(1)		
ビジネス時事(1)		ビジネス事情演習(1)		ビジネス創造セミナー(2)
			経済学演習 I (2)	経済学演習 II (2)
				国際経営論(2)
				経営戦略論(2)
		経営入門(2)	経営学(2)	
				組織論(2)
			原価計算(2)	
		簿記入門(2)		
			財務会計(2)	
				会計理論(2)
			実務研修(1)	
			セミナー(2)	卒業研究(6)

  必修科目  
   必履修科目  
   選択科目  
 ( ) 単位数

# 専門科目の概要 (平成20年度以降入学者用教育課程)

## コミュニケーション情報学科

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	第 5 学 年
			ビジネス英語入門(2)	ビジネス英語演習(2)
コミュニケーション論入門(2)	コミュニケーション論(2)	言語コミュニケーション(1)	非言語コミュニケーション入門(2)	異文化コミュニケーション演習(2)
			異文化コミュニケーション入門(2)	
ビジュアル情報基礎(2)	ビジュアル情報演習(1)	情報処理基礎(2)	プログラミング基礎(2)	
情報基礎(2)	情報基礎演習(2)	情報処理演習(1)	プログラミング演習(2)	情報工学特講(1)
				情報システム(2)
				情報システム演習(2)
				情報創造セミナー(2)
		経営情報システム基礎(2)	経営情報システム演習(1)	確率統計学演習(2)
			確率統計学(2)	管理工学(2)
		経営数学入門(2)	経営数学演習Ⅰ(1)	経営数学演習Ⅱ(2)
	経営情報入門(2)	経営情報演習(1)		ビジネス創造セミナー(2)
ビジネス事情(1)		ビジネス事情演習(1)	経済学演習Ⅰ(2)	経済学演習Ⅱ(2)
				国際経営論(2)
				経営戦略論(2)
		経営入門(2)	経営学(2)	組織論(2)
			原価計算(2)	
		簿記入門(2)	財務会計(2)	会計理論(2)
			実務研修(1)	
			セミナー(2)	卒業研究(6)

  必修科目     
   選択科目     
 ( ) 単位数

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
コミュニケーション論入門 Introduction to Communication Science	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	森川 治
授業概要	コミュニケーション学の基礎となる要約力、論理的な発話能力を養うためのトレーニングを行い、読む力を養う。メモの技術、ワープロ・表計算ソフトの基礎を学ぶ。クラス内で様々なコミュニケーションを実体験する。				
到達目標	①和文タイプを100字/1分間(漢字含有率約30%)を入力できる。 ②英文60words /1分間(約250字)を入力できる。 ③2000字の文章を400字に要約し、内容についての的確にコメントできる。 ④Excelのif文と簡単なグラフが作成できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(6).				
履修上の注意	宿題を毎回やり終えてから授業に臨むこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	授業概要説明、諸注意、アンケート		授業目標の把握、Windowsの基本的操作		
第2週	タイピング練習、Word 1		文章の入力、文字の変換、保存、印刷		
第3週	タイピング練習、Word 2		複写、削除、移動		
第4週	タイピング練習、Word 3		編集機能(1)		
第5週	タイピング練習、Word 4		編集機能(2)		
第6週	タイピング練習、Excel 1		入力の基礎、sum関数、average関数		
第7週	タイピング練習、Excel 2		様々なデータ入力の方法		
第8週	タイピング練習、Excel 3		相対番地、絶対番地		
第9週	タイピング練習、Excel 4		絶対参照		
第10週	タイピング練習、Excel 5		max関数、min関数、count関数		
第11週	タイピング練習、Excel 6		if関数(1)		
第12週	タイピング練習、Excel 7		if関数(2)		
第13週	タイピング練習、Excel 8		if関数(3)		
第14週	タイピング練習、Excel 9		if関数(4)、グラフ作成(1)		
第15週	タイピング練習、Excel 10		if関数(5)、グラフ作成(2)		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	文章の並べ替え、結合(1)		コミュニケーションの基本的定義、メモの取り方		
第17週	文章の並べ替え、結合(2)		ブラウジング、読書法		
第18週	文章の並べ替え、結合(3)		日本人の読書力		
第19週	文章の要約(1)		音読の重要性		
第20週	文章の要約(2)		暗記の重要性		
第21週	文章の要約(3)		手書きの重要性、ワープロソフトの利便性		
第22週	文章の要約(4)		日誌(日記)の重要性		
第23週	後期中間試験				
第24週	図化・文章化の往復運動(1)		自己開示		
第25週	図化・文章化の往復運動(2)		ペルソナ		
第26週	図化・文章化の往復運動(3)		親和表現		
第27週	図化・文章化の往復運動(4)		アイ・コンタクト		
第28週	人間関係と日本語運用能力(1)		ポジショニング		
第29週	人間関係と日本語運用能力(2)		身体接触		
第30週	人間関係と日本語運用能力(3)		時間と色彩		
後期期末試験	実施する				
教科書					
参考図書	実践!日本語ドリル』、齋藤孝著、宝島社 / 『30時間でマスター Word&Excel2002』、実教出版				
評価方法	定期試験 25%、タイピング25%、小テスト 25%、課題及び発表25%で評価する。				



授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス事情 Business Topic	1	1 (30)	必修	前期 週2時間 A	平塚 力
授業概要	ビジネスに関連する基礎的な政治・時事問題について学ぶ。				
到達目標	①政治問題に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。 ②時事問題に関する基礎的な情報を正しく理解できる能力を修得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:4).				
履修上の注意	新聞等を毎日読んで、最新の政治・時事問題についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	イントロダクション 国際政治(1) 国際政治(2) 国際政治(3) 国際政治(4) 国際政治(5) 時事問題 前期中間試験 国際政治(6) 国際政治(7) 国際政治(8) 国際政治(9) 国際政治(10) 総合演習 学習したことの総括 実施する			授業の進め方およびレポートの書き方 国際社会と国際法 国際連盟 国際連合 PKO活動 最新の政治ニュースを読む  冷戦の構造 冷戦の成立 新冷戦期 冷戦の終結 国際紛争 民族紛争 これまでの復習 前期期末試験解答用紙の返却と解説	
教科書					
参考図書	教養の政治学・経済学, 香川勝俊, 学術図書出版社 そうだったのか現代史, 池上彰, ホーム社				
評価方法	定期試験70%, 課題等30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報基礎 Information Literacy	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	布施 雅彦
授業概要	一般科目、専門科目および情報系科目の基礎となる事項、コンピュータの操作方法を学ぶ。福島高専のICTとして必要最低限の情報に関するリテラシーを習得する。				
到達目標	①電子メール、WEBブラウザが利用でき、ネット利用してコミュニケーションができる。 ②プレゼンテーションソフトウェアの基本的な操作ができる。 ③初歩的なプログラミングまたは3D表現ができる。 ④情報社会の基礎知識を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3), (D-2), (D-3), (F-3), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2), 5), 6).				
履修上の注意	授業で得た知識・技術を他の教科・科目で利用できなければならない。失敗を恐れず、コンピュータをどんどん使ってみてほしい。ただし、利用に当たっては、利用規則を遵守すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	オリエンテーション		学習の進め方、演習室の利用方法、eメールの使用方法		
第2週	ネットワークの利用方法(1)		Webの使用方法、タイピング		
第3週	ネットワークの利用方法(2)		情報倫理(セキュリティ・知的所有権・個人情報)		
第4週	ネットワークの利用方法(3)		情報倫理のまとめ		
第5週	画像処理		デジタル写真の使い方		
第6週	プレゼンテーション(1)		文字、図形の入力方法、絵図		
第7週	プレゼンテーション(2)		スライドについて 見やすい大きさ、配置、色		
第8週	WEB表示の言語(1)		タグの使い方		
第9週	WEB表示の言語(2)		紹介Webページ作成		
第10週	ICTの活用(1)		モバイル端末の利用方法		
第11週	ICTの活用(2)		モバイル端末での学習		
第12週	プレゼンテーション(3)		発表の聴講、評価		
第13週	プレゼンテーション(4)		発表の聴講、評価		
第14週	プレゼンテーション(5)		発表の聴講、評価		
第15週	プレゼンテーション(6)		発表の聴講、評価、まとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	WEB表示の言語(3)		紹介Webページ鑑賞、検討		
第17週	表計算(1)		入力方法とsum関数		
第18週	表計算(2)		average、max、min関数		
第19週	表計算(3)		グラフ、その他の関数		
第20週	応用コンピュータ演習(1)		フローチャート/モデリング		
第21週	応用コンピュータ演習(2)		簡単な計算/立体物の制作		
第22週	応用コンピュータ演習(3)		繰り返し・分岐/マッピング		
第23週	応用コンピュータ演習(4)		課題演習・制作		
第24週	応用コンピュータ演習(5)		課題演習・制作		
第25週	情報の基礎(1)		情報の基礎、情報の単位、n進法		
第26週	情報の基礎(2)		論理演算、アナログとデジタル		
第27週	情報の基礎(3)		論理演算の演習		
第28週	情報の基礎(4)		コンピュータの構成		
第29週	情報の基礎(5)		期末試験に関して、まとめ		
第30週	まとめ		テストの返却		
後期期末試験	実施する				
教科書	わかりやすい情報技術基礎 コロナ社				
参考図書	インターネット社会を生きるための情報倫理 実教出版				
評価方法	定期試験を30%、課題、小テストを50%、プレゼンテーションを20%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジュアル情報基礎 Basic Visual Communication	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	米本 清
授業概要	情報化社会において重要な役割を果たしている視覚情報は、様々な要素によって成り立っている。その基本要素である文字、形(具象、抽象)、色彩の情報要素を理解した上で、自ら計画・作成し、視覚的な表現基礎を学習する。				
到達目標	①形を空間的に把握でき、紙面に鉛筆でデッサンが描ける。②色彩の基本三原色から混色して基本色相が表現できる。③混色方法が理解できて、基本三原色・白・黒の絵の具からモデルのかたちと色彩表現ができる。④文字の意味を理解し、ビジュアル表現化する基礎技術が習得できる。⑤平面作図法と作画が修得できる。⑥投影図法と透視図法が修得できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5). 6).				
履修上の注意	前期は立体を把握するデッサン力、色彩を理解する三原色、文字の意味をビジュアル化する表現方法に留意する。後期はさまざまな平面作図法、投影図、透視図の作図法から空間と立体の平面表現、平面からの立体表現方法を演習を通して学習できるよう留意する				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	発想と表現 鉛筆表現とデッサン 鉛筆表現とデッサン 鉛筆表現とデッサン 鉛筆表現とデッサン 色彩と混色 色彩表現と描写 色彩表現と描写 色彩表現と描写 色彩表現と描写 果物と質感 タイポグラフィ タイポグラフィ タイポグラフィ タイポグラフィ タイポグラフィ 実施する	点・線・面による鉛筆表現方法 折り曲げることでできる立体と空間を表現描写する ねじることでできる立体と空間を表現描写する 展開図を作図して制作した立体表現描写 紙以外の質感を持つモデルの鉛筆表現描写 色彩の三原色を混色して全ての色彩を作る 自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法 自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法 自然の植物を描写する基本と色彩混色の方法 色彩の三原色を混色して全ての色彩を作る WORDが持つ意味に視覚表現を加えるアイデアと方法 WORDが持つ意味に視覚表現を加えるデザイン表現 WORDが持つ意味に視覚表現を加えるデザイン表現 WORDが持つ意味と視覚表現の仕上げ WORDが持つ意味と視覚表現の仕上げ			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	平面基礎図形の作図 平面基礎図形の作図 平面基礎図形の作図 平面基礎図形の作図 平面基礎図形の作図 後期中間試験 投影図の作図法 投影図の作図法 投影図の作図法 投影図の作図法 投影図の作図法 投影図の作図法 投影図の作図法 投影図の作図法 投影図の作図法 実施する	水平線、垂直線、平行線、平行線間の等分法 円周の等分、角の等分、接線の作図、円周の直線化 ルート矩形、黄金矩形の作図法 正多角形: 正5角形、正6角形、正7角形、正8角形 弧成楕円、放物線の作図法 弧成スパイラルの作図法 平面基礎図形の作図法 立体の投影法と概念、第1角法の投影図の作図法 第1角法の投影図の作図法 第1角法の投影図の作図法 透視空間の概念、直接透視法、立体の透視法 基本立体の透視法 基本立体の透視法 応用立体の透視法 応用立体の透視法			
教科書					
参考図書					
評価方法	前期:課題作品提出を80%、制作レポート提出を20%で評価 後期:中間試験、期末試験の成績を70%、授業時の演習プリント提出を30%で評価				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報入門 Introduction to Management Information	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	芥川 一則
授業概要	コンピュータの基本的な仕組みを理解するとともに企業の業務におけるコンピュータの役割を理解する。さらにコンピュータを道具として、その部署及び担当業務に役立てる手法を身につける。特に効率化の意味を理解する。				
到達目標	①初級システムアドミニストレータ程度の知識を理解できる。 ②初級システムアドミニストレータ程度の技能を身につける。 ③業務改善の方法が理解できる。 ④国家試験に合格できる実力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3), (C-2), (D-2), (E-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(2), 5).				
履修上の注意	初級システムアドミニストレータ程度の知識と技能を身につけられるように、授業時間ごとの予習に、復習に努めるとともに自主的に問題に取り組むこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	コンピュータの管理者	システムアドミニストレータの必要性	システムアドミニストレータの必要性		
第2週	コンピュータの業務	業務と情報の流れ、問題点の発見と改善	業務と情報の流れ、問題点の発見と改善		
第3週	コンピュータの仕組み(1)	コンピュータと人間の機能	コンピュータと人間の機能		
第4週	コンピュータの仕組み(2)	コンピュータの種類、ソフトウェアとその種類	コンピュータの種類、ソフトウェアとその種類		
第5週	業務の整理(1)	QC七つ道具	QC七つ道具		
第6週	総合演習(1)	専門用語の確認	専門用語の確認		
第7週	前期中間テスト				
第8週	業務の整理(2)	新QC七つ道具	新QC七つ道具		
第9週	基幹業務	基幹業務システムの考え方	基幹業務システムの考え方		
第10週	システム開発	システム開発の手法と手順	システム開発の手法と手順		
第11週	入出力設計(1)	入出力画面の設計	入出力画面の設計		
第12週	入出力設計(2)	入力操作の定義	入力操作の定義		
第13週	入出力設計(3)	出力設計	出力設計		
第14週	テストランとシステム運用	テストの目的、テストの種類、PDCAサイクル	テストの目的、テストの種類、PDCAサイクル		
第15週	総合演習(2)	専門用語の確認	専門用語の確認		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	利用者とコンピュータ(1)	EUCが実現できた背景	EUCが実現できた背景		
第17週	利用者とコンピュータ(2)	コンピュータ利用の変遷	コンピュータ利用の変遷		
第18週	ハードウェア(1)	パソコンの基本構成	パソコンの基本構成		
第19週	ハードウェア(2)	パソコンの動作の仕組み	パソコンの動作の仕組み		
第20週	ソフトウェア(1)	ソフトウェアの種類	ソフトウェアの種類		
第21週	総合演習(3)	専門用語の確認	専門用語の確認		
第22週	後期中間試験				
第23週	ソフトウェア(2)	アプリケーションソフト、データ形式	アプリケーションソフト、データ形式		
第24週	表計算	表計算ソフトの基礎	表計算ソフトの基礎		
第25週	データベース(1)	データベースソフトの基礎	データベースソフトの基礎		
第26週	データベース(2)	SQL、正規化、射影、選択、結合	SQL、正規化、射影、選択、結合		
第27週	コンピュータネットワーク	LAN、WAN、インターネット	LAN、WAN、インターネット		
第28週	多様な活用法	マルチメディア、イントラネット、暗号化技術	マルチメディア、イントラネット、暗号化技術		
第29週	環境整備と運用管理	オフィス環境、機器の配置	オフィス環境、機器の配置		
第30週	総合演習(4)	専門用語の確認	専門用語の確認		
後期期末試験	実施する				
教科書	初級システム標準教科書、早川芳彦他、オーム社情報C、数研出版				
参考図書	初級シスアド完全解答、オーム社				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報基礎演習 Computer Literacy Practice	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	米本 清
授業概要	コンピュータを活用し、情報の収集、整理、報告などを効率的に行う技術を学ぶ。				
到達目標	①情報の収集、整理、報告の技術を習得する。 ②情報機器の活用能力を習得する。 ③情報セキュリティーおよび情報倫理についての知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2), (D-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5), 6).				
履修上の注意	コンピュータおよびアプリケーションの基本的な使い方は修得しているものとして演習を行うので、1年次の情報基礎で学んだことを復習しておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	情報技術概要 情報倫理と著作権 インターネットの概要 電子メールの利用 情報セキュリティー 情報検索 前期中間試験 文書作成(1) 文書作成(2) 報告書作成(1) 報告書作成(2) 文書作成(3) 文書作成(4) 報告書作成(3) 報告書作成(4)	情報処理機器の基本技術 情報を扱う上での倫理と著作権 インターネットの概要と技術 電子メール仕組みと利用方法 ネットワークセキュリティーと犯罪 インターネットを用いた情報検索  文書処理の基本 レポートの書き方 テーマを決めて報告書を作成 テーマを決めて報告書を作成 図形を使用した表現 数式の作成 テーマを決めて報告書を作成 テーマを決めて報告書を作成			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	実施しない 表計算の基礎(1) 表の作成と整理(2) 統計基礎(1) 統計基礎(2) 表計算とデータベース(1) 表計算とデータベース(2) データ集計演習(1) データ集計演習(2) プレゼンテーション(1) プレゼンテーション(2) プレゼンテーション(3) プレゼンテーション(4) プレゼンテーション(5) プレゼンテーション(6) まとめ 実施しない	表の作成と整理 グラフの作成 Excelを用いた統計処理1 Excelを用いた統計処理2 Excelによるデータベースの基本概念 集計機能とレコード抽出 数値データの集計と報告書作成 数値データの集計と報告書作成 プレゼンテーションの基本 プレゼンテーションの設計と作成 プレゼンテーションの設計と作成 発表演習(1) 発表演習(2) 発表演習(3) 1年間のまとめの報告書を作成			
教科書					
参考図書	Microsoft Office2003を使った情報リテラシーの基礎、近代科学社				
評価方法	前期中間試験30%および課題70%により総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジュアル情報演習 Visual Introduction Practice	2	1 (30)	必修	前期 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	現代の情報化社会に溢れている多くの情報の中で、受け取る側に配慮されたビジュアル情報が求められている。その情報に求められる、適切なフォント、サイズ、文章の量、適切な写真、図版、適切に配慮された背景色、文字色等を総合的にデザイン計画できるよう媒体性格にあわせた構成力を実習する。				
到達目標	①ビジュアル情報の構成要素を使って伝達しやすいデザイン構成の技術が学習できる。 ②色彩学の基礎を学習することで、様々な媒体にあった視覚効果の高い表現ができる。 ③立体、空間の概念を学習することで、広い空間表現、奥行感を表現することができる。 ④アプリケーションソフトを使用し、基礎デザインから応用デザイン制作ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-4). (E-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5). 6).				
履修上の注意	与えられたテーマからアイデア、資料調査、制作、仕上げまで、デザイン演習できるよう留意する。ソフト機能を理解し、目的に適ったビジュアル表現の工夫ができるよう留意する。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	直線とデザイン 放射線とデザイン 放物線のデザイン 放物線のデザイン グラデーションとデザイン グラデーションとデザイン スパイラルとデザイン スパイラルとデザイン スパイラルとデザイン 色彩学:三原色の基礎知識 色彩学:光の三原色 色相環と色の伝達 色彩心理 色彩心理 錯視の応用 実施する		直線と色彩を使ったデザイン構成 放射線と色彩を使ったデザイン構成 *作品鑑賞 線で構成できるデザインと色彩構成 *作品鑑賞 放物線作図で構成できるデザインと色彩構成 グラデーションと色彩のデザイン構成*作品鑑賞 グラデーションと文字レイアウトのデザイン構成 スパイラル作図とデザイン・色彩構成 *作品鑑賞 スパイラル作図の構成デザインと空間・色彩構成 スパイラル作図の構成デザインと空間・色彩構成 光と色料の三原色の基礎知識 *作品鑑賞 色の見えるしくみ、眼の構造、色彩の知覚 マンセル色相環、オストワルド色相環、PCCS色相環、 残像、錯視(平面錯視) 錯視(立体錯視) エッセジャー、福田繁雄作品鑑賞とレポート制作		
教科書	色彩,大井義雄ほか,美術出版社				
参考図書	デザインの色彩,中田満雄ほか,日本色研事業				
評価方法	課題作品提出80%,制作レポート20%で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
コミュニケーション論 Introduction to Communication Science	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	基礎的数理解析法を学び、事例分析能力を育成する。				
到達目標	①関数とグラフを理解し、解析幾何の基礎的問題が解ける。②システム・シンキングの手法を理解し、事例分析ができる。③確率・エントロピーの意味を理解し、基礎的問題が解ける④コミュニケーションモデルを理解し、簡単な事例分析ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1), (D-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	問題を数多く解くこと。また、新聞等を毎日読み、外交・政治・経済問題についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	基礎数学の復習(1)	1直線の方程式の演習			
第2週	基礎数学の復習(2)	二次関数の復習			
第3週	基礎数学の復習(3)	二次方程式、二次不等式の復習			
第4週	基礎数学の復習(4)	グラフと不等式の復習			
第5週	基礎数学の復習(5)	関数とグラフの総合演習(1)			
第6週	基礎数学の復習(6)	関数とグラフの総合演習(2)			
第7週	前期中間試験	null			
第8週	システム・シンキング入門(1)	システムの定義とその具体例			
第9週	システム・シンキング入門(2)	フィードバックシステムとその応用			
第10週	システム・シンキング入門(3)	1フィードフォワードシステムと予言の自己成就			
第11週	システム・シンキング入門(4)	バランスフィードバック・ループ			
第12週	システム・シンキング入門(5)	1フィードフォワードシステムと予言の自己成就			
第13週	システム・シンキング入門(6)	事例分析			
第14週	システム・シンキング入門(7)	事例分析			
第15週	前期学習したことの総括	前期末試験解答用紙の返却、解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	情報理論入門(1)	確率の復習			
第17週	情報理論入門(2)	確率の問題演習			
第18週	情報理論入門(3)	指数関数の基本的性質			
第19週	情報理論入門(4)	指数関数の問題演習			
第20週	情報理論入門(5)	対数関数の基本的性質			
第21週	情報理論入門(6)	対数関数の問題演習			
第22週	後期中間試験				
第23週	情報理論入門(7)	エントロピーの基本的性質			
第24週	情報理論入門(8)	エントロピーの問題演習(1)			
第25週	情報理論入門(9)	エントロピーの問題演習(2)			
第26週	コミュニケーション論入門(1)	シャノン・ウィーバーのコミュニケーションモデル			
第27週	コミュニケーション論入門(2)	拡張シャノン・ウィーバーのコミュニケーションモデル			
第28週	コミュニケーション論入門(3)	メタコミュニケーションモデル			
第29週	コミュニケーション論入門(4)	コミュニケーションモデルの応用			
第30週	後期学習したことの総括	後期末試験解答用紙の返却、解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	システム・シンキング入門、西村行功、日本経済新聞社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、小テスト及び課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
簿記入門 Introduction to Bookkeeping	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 美紀子
授業概要	会計学の基礎を学んでいく上で、複式簿記の仕組みを理解することは非常に有意義であり、かつ必要不可欠である。本講義では、全経3級レベルの簿記一巡の手続きについて学習する。				
到達目標	①基本的な仕訳と転記が確実に出来る。 ②試算表やその他帳簿の作成が出来る。 ③個人企業における財務諸表の作成手続きを理解出来る。 ④2月に実施される簿記能力検定試験の3級合格を目指し、試験問題を解くことが出来る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	1間でも多く、1回でも多く問題を解くことが大切である。制限時間内に試験問題に解答できるように、配布プリント以外にも積極的に過去の既出問題を解き、自己学習すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		授業の進め方、検定試験の説明、簿記の5要素		
第2週	資産・負債・資本		貸借対照表の作成		
第3週	収益・費用		損益計算書の作成		
第4週	取引		取引の意味		
第5週	勘定		勘定科目		
第6週	仕訳帳・総勘定元帳		仕訳・転記		
第7週	試算表		試算表の作成		
第8週	復習		これまでの復習		
第9週	決算(1)		決算手続き		
第10週	現金・預金		現金、当座預金他		
第11週	商品		三分法		
第12週	売掛金・買掛金		人名勘定、貸倒引当金		
第13週	固定資産(1)		減価償却		
第14週	固定資産(2)		固定資産の売却		
第15週	復習		前期のまとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	手形		約束手形、為替手形		
第17週	有価証券		買入、売却、評価		
第18週	各種債権・債務		貸付金、借入金他		
第19週	資本金		個人企業の資本金		
第20週	税金		個人企業の税金		
第21週	決算(2)		精算表の作成		
第22週	決算(3)		財務諸表の作成		
第23週	復習		これまでの復習		
第24週	第5問対策		財務諸表作成問題		
第25週	第2問対策		計算問題		
第26週	第3問対策		伝票問題		
第27週	第3問対策		試算表作成問題		
第28週	第4問対策		帳簿記入問題		
第29週	第1問対策		仕訳問題		
第30週	総合演習		1年間のまとめ		
後期期末試験	実施する				
教科書	『とおるテキスト 日商簿記3級』TAC出版、『完全分類 全経簿記、3級商業簿記』英光社、『全経簿記 改訂ワークブック、3級商業簿記』英光社;配付資料				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 課題20%, 学習態度を10%として総合的に評価する。				



授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営入門 Introduction to Management	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	平塚 力
授業概要	経営学を初めて学ぶ学生のための入門(総論)的な授業である。				
到達目標	①企業形態論に関する基礎的な知識を習得する。 ②経営学説史に関する基礎的な知識を習得する。 ③経営組織論に関する基礎的な知識を習得する。 ④個別の経営理論に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:4).				
履修上の注意	新聞等を毎日読んで、最新の経営事情についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 経営学と企業の特徴(1) 経営学と企業の特徴(2) 経営学と企業の特徴(3) 経営学と企業の特徴(4) 経営学と企業の特徴(5) 前期中間試験 経営理論の流れ(1) 経営理論の流れ(2) 経営理論の流れ(3) 経営理論の流れ(4) 経営理論の流れ(5) 経営理論の流れ(6) 総合演習 前期学習したことの総括 実施する 経営理論の流れ(7) 経営理論の流れ(8) 経営理論の流れ(9) 経営理論の流れ(10) 経営組織の特徴と理論(1) 経営組織の特徴と理論(2) 後期中間試験 個別の管理論および経営論(1) 個別の管理論および経営論(2) 個別の管理論および経営論(3) 個別の管理論および経営論(4) 個別の管理論および経営論(5) 個別の管理論および経営論(6) 総合演習 後期学習したことの総括 実施する	授業の進め方とレポートの書き方 経営学とその位置づけ 企業の特徴と企業の種類 株式会社の特徴と仕組み 所有と経営の分離 現代企業の組織構造  テイラー フォード ファヨール 人間関係論 アージリス, マズロー マクレガー, ハーズバーグ これまでの復習 前期期末試験解答用紙の返却と解説  バーナード サイモン コンティンジェンシー理論 組織間関係論 基本的な組織形態 様々な組織形態  経営戦略 人事管理論 リーダーシップ論 マーケティング論 グローバル戦略 日本的経営論 これまでの復習 後期期末試験解答用紙の返却と解説			
教科書					
参考図書	テキスト経営学(増補版), 井原久光, ミネルヴァ書房				
評価方法	定期試験70%, 課題等30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営数学入門 Introduction to Mathematics for Management	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	経営に必要な微分法、積分法および線形代数の基礎を学習する。				
到達目標	①経営で必要とされる最大・最小問題が解ける。 ②積分の意味を理解し、基礎的積分問題が解ける。 ③行列・行列式を理解し、基礎的な問題が解ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	問題を数多く解き、概念の理解に努める。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	微分法(1)	微分(2年)の復習	微分(2年)の復習 微分(2年)の復習 微分(2年)の復習 関数の極限 積と商の導関数 合成関数とその導関数 null 指数関数・対数関数の導関数 関数の増減・凹凸 関数の増減・凹凸 を調べてグラフを書く(1) 関数の増減・凹凸 を調べてグラフを書く(2) 微分法の総合演習(1) 微分法の総合演習(2) 微分法の総合演習(3) 前期期末試験解答用紙の返却、解説		
第2週	微分法(2)	微分(2年)の復習			
第3週	微分法(3)	微分(2年)の復習			
第4週	微分法(4)	関数の極限			
第5週	微分法(5)	積と商の導関数			
第6週	微分法(6)	合成関数とその導関数			
第7週	前期中間試験	null			
第8週	微分法(7)	指数関数・対数関数の導関数			
第9週	微分法(8)	関数の増減・凹凸			
第10週	微分法(9)	関数の増減・凹凸 を調べてグラフを書く(1)			
第11週	微分法(9)	関数の増減・凹凸 を調べてグラフを書く(2)			
第12週	微分法(10)	微分法の総合演習(1)			
第13週	微分法(11)	微分法の総合演習(2)			
第14週	微分法(12)	微分法の総合演習(3)			
第15週	前期で学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却、解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	積分(1)	積分(2年)の復習	積分(2年)の復習 積分(2年)の復習 積分(2年)の復習 不定積分 不定積分の演習 不定積分の演習  定積分 不定積分の演習 不定積分の演習 行列、行列の積 逆行列 行列式の性質 線形代数の総合演習 後期期末試験解答用紙の返却、解説		
第17週	積分(2)	積分(2年)の復習			
第18週	積分(3)	積分(2年)の復習			
第19週	積分(4)	積分(2年)の復習			
第20週	積分(5)	不定積分			
第21週	積分(6)	不定積分の演習			
第22週	後期中間試験	不定積分の演習			
第23週	積分(7)				
第24週	積分(8)	定積分			
第25週	積分(9)	不定積分の演習			
第26週	線形代数(1)	不定積分の演習			
第27週	線形代数(2)	行列、行列の積			
第28週	線形代数(3)	逆行列			
第29週	線形代数(4)	行列式の性質			
第30週	後期で学習したことの総括	線形代数の総合演習			
後期期末試験	実施する	後期期末試験解答用紙の返却、解説			
教科書	新編高専の数学2、田代嘉宏著。森北出版				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、小テスト20%で評価します。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報演習 Management Information Practice	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	芥川 一則
授業概要	業務の効率化をはかるコンピュータの利用法について理解する。業務をコンピュータで処理する手順を習得する。				
到達目標	①業務の問題点を把握する方法を身につける。 ②業務の効率化の方法を身につける。 ③業務におけるコンピュータの利用法を理解する。 ④初級システムアドミニストレータの資格を取得できるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-4). (C-3). (D-3). (E-3). (F-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2). 5).				
履修上の注意	問題の解法を中心に行うので、十分に復習して解法を理解しておくこと。授業時間ごとの予習、復習に努めること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	業務改善	仕事の進め方の改善			
第2週	コンピュータシステム	データと処理の流れをつかまえる技法			
第3週	データの処理	データの直感的な表し方			
第4週	意思決定の手法	KJ法と決定表			
第5週	入出力設計	入力設計と画面出力			
第6週	前期中間総合演習	専門用語の確認			
第7週	前期中間試験				
第8週	テストラン、システム運用	テストおよび検収、稼働率、信頼度			
第9週	本体と周辺機器	性能と装置、周辺機器、性能評価			
第10週	ソフトウェア	基本ソフトウェア、応用ソフトウェア			
第11週	表計算ソフト	概要と操作			
第12週	データベースソフト	DBMS、選択、射影、統合、SQL			
第13週	コンピュータネットワーク	LAN、インターネット			
第14週	ハード・ソフトの導入とインストール	セットアップ・ファイル管理・セキュリティ管理			
第15週	前期総合演習	専門用語の確認			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	業務の分析と改善(1)	受注業務、在庫管理業務			
第17週	業務の分析と改善(2)	定量的効果、定性的効果			
第18週	基幹業務システム(1)	入出力画面の設計支援			
第19週	基幹業務システム(2)	システムのテスト支援			
第20週	コンピュータの実践知識(1)	ネットワーク運用管理			
第21週	後期中間総合演習	専門用語の確認			
第22週	後期中間試験				
第23週	コンピュータの実践知識(2)	アクセス制御			
第24週	管理者業務(1)	表計算ソフトの基礎			
第25週	データベース(1)	デジタル署名			
第26週	表計算ソフト(1)	SQL、正規化、射影、選択、結合			
第27週	表計算ソフト(2)	グラフ機能			
第28週	データベースソフト(1)	SQL文によるデータの更新、挿入、削除			
第29週	データベースソフト(2)	クライアントサーバ型のデータベースシステム			
第30週	総合復習	専門用語の確認			
後期末試験	実施する				
教科書	初級シスアド標準問題集、早川芳彦監修、オーム社編				
参考図書	初級シスアド標準教科書、早川芳彦監修、オーム社編初級シスアド完全解答、オーム社編				
評価方法	定期試験の成績80%、課題を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報システム基礎 Basic Administration Information Systems	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	脇田 淳一
授業概要	経営情報システムの基礎を主に統計的品質管理と関連付けて学習する。				
到達目標	①統計的品質管理の基本的考え方を理解する。 ②検定、推定を理解する。 ③管理図の読み方を理解する。 ④問題解決の合理的なアプローチ方法を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-2), (E-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2), 5).				
履修上の注意	数学、情報科学の基礎を理解しておくことが必要。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週	イントロダクション			概要と授業ガイダンス	
第2週	品質管理とは(1)			品質管理における基本的な考え方	
第3週	品質管理とは(2)			品質管理のための組織的行動	
第4週	データのまとめ方(1)			母集団と試料	
第5週	データのまとめ方(2)			分布の中心位置とバラツキの表し方	
第6週	計量値の分布(1)			正規分布	
第7週	前期中間試験				
第8週	計量値の分布(2)			カイ2乗分布	
第9週	計量値の分布(3)			t分布	
第10週	計量値の分布(4)			F分布	
第11週	計数値の分布			2項分布, 正規分布近似	
第12週	検定(1)			母分散に関する検定	
第13週	検定(2)			1つの母平均に関する検定	
第14週	検定(3)			2つの母平均の差に関する検定	
第15週	前期学習したことの総括			前期期末試験解答用紙の返却、解説	
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	計数値の検定(4)			母不良率に関する検定	
第17週	計数値の検定(5)			母欠点数に関する検定	
第18週	計量値の推定(1)			母分散の推定	
第19週	計量値の推定(2)			1つの母平均の推定	
第20週	計量値の推定(3)			2つの母平均の差の推定	
第21週	計数値の推定(4)			母不良率、母欠点数の推定	
第22週	後期中間試験				
第23週	管理図(1)			xbar-R管理図	
第24週	管理図(2)			pn管理図	
第25週	管理図(3)			u管理図、c管理図	
第26週	管理図(4)			管理図の見方、管理状態とは	
第27週	相関と回帰(1)			無相関の検定	
第28週	相関と回帰(2)			母相関係数 $\rho$ に対する検定	
第29週	相関と回帰(3)			単回帰式	
第30週	後期学習したことの総括			後期期末試験解答用紙の返却、解説	
後期期末試験	実施する				
教科書	適宜プリントを配布する。				
参考図書	品質管理のための統計的方法入門、鐵健司、日科技連				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題の成績を20%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報処理基礎 Basic Information Processing	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	米本 清
授業概要	情報処理の基礎知識について学習する				
到達目標	①ハードウェアについて理解し、基本項目について説明できる。 ②ソフトウェアについて理解し、基本項目について説明できる。 ③表計算ソフトやデータベースシステムの基本を理解し、簡単な演習問題が解ける。 ④初級システムアドミニストレータ試験の合格を目指す。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (B-3), (B-4), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(5), (6).				
履修上の注意	基本項目をしっかり頭に入れてほしい。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	ハードウェアの基礎知識 ハードウェアの基礎知識 ハードウェアの基礎知識 ハードウェアの基礎知識 ハードウェアの基礎知識 ハードウェアの基礎知識 前期中間試験 ソフトウェアの基礎知識 ソフトウェアの基礎知識 ソフトウェアの基礎知識 システムの基礎知識 システムの基礎知識 システムの基礎知識 システムの基礎知識 システムの基礎知識 実施する プログラミングの基礎 プログラミングの基礎 プログラミングの基礎 アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの基礎 後期中間試験 アルゴリズムの基礎 データ構造の基礎 データ構造の基礎 文字列の処理 文字列の処理 グラフィックス グラフィックス グラフィックス 実施する	論理素子、CPU、メモリ 記憶装置、入出力装置 コンピュータの種類 いろいろな計算問題 ソフトウェアの種類、オペレーティングシステム プログラムの種類、プログラミング言語  アルゴリズムとデータ構造 表計算ソフト データベースシステム システムの構成 性能、信頼性 セキュリティ 標準化 標準化  ソフトウェアの種類、OS、言語処理系 基本制御構造、データ構造 アルゴリズムの記述方法、流れ図、基本制御構造 順次(逐次)処理 分岐(選択)処理 反復(繰り返し)処理 反復(繰り返し)処理 データ構造の基礎 1次元配列 2次元配列、配列の応用 文字列の定義 文字列関数、文字列ステートメント 図形の描画、座標系 描画メソッド 画像の取り扱い、まとめ			
教科書					
参考図書	初級シスアド合格教本 平成19年度春期秋期、技術評論社				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストと課題を30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報処理演習 Information Processing Practice	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	島村 浩
授業概要	情報処理基礎の演習および実習に関する内容を学習する。				
到達目標	①情報処理の基礎的な事柄に対して、説明ができる。 ②プログラミングの基本的な内容を理解し、プログラムが作成できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (B-3). (B-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5). 6).				
履修上の注意	問題を実際に解いてみないと、力がかからない。きちんと自分の頭で考えること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	ハードウェアの基礎知識(1)		論理素子、CPU、メモリに関する基本事項		
第2週	ハードウェアの基礎知識(2)		記憶装置、入出力装置に関する基本事項		
第3週	ハードウェアの基礎知識(3)		コンピュータの種類に関する基本事項		
第4週	ハードウェアの基礎知識(4)		ハードウェアに関する基本事項		
第5週	ソフトウェアの基礎知識(1)		ソフトウェアの種類、OSに関する基本事項		
第6週	ソフトウェアの基礎知識(2)		プログラムの種類、言語に関する基本事項		
第7週	総合演習		ハードウェアとソフトウェアに関する基本事項		
第8週	ソフトウェアの基礎知識(3)		アルゴリズムとデータ構造に関する基本事項		
第9週	ソフトウェアの基礎知識(4)		表計算ソフトに関する基本事項		
第10週	ソフトウェアの基礎知識(5)		データベースシステムに関する基本事項		
第11週	コンピュータシステムの基礎知識(1)		システムの構成に関する基本事項		
第12週	コンピュータシステムの基礎知識(2)		性能、信頼性に関する基本事項		
第13週	コンピュータシステムの基礎知識(3)		セキュリティに関する基本事項		
第14週	コンピュータシステムの基礎知識(4)		標準化に関する基本事項		
第15週	コンピュータシステムの基礎知識(5)		基礎知識の確認、まとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	プログラミングの基礎(1)		ソフトウェアの種類、OS、言語処理系に関する基本事項		
第17週	プログラミングの基礎(2)		基本制御構造、データ構造に関する基本事項		
第18週	プログラミングの基礎(3)		記述方法、流れ図、基本制御構造に関する基本事項		
第19週	アルゴリズムの基礎(1)		順次(逐次)処理に関する基本事項		
第20週	アルゴリズムの基礎(2)		分岐(選択)処理に関する基本事項		
第21週	アルゴリズムの基礎(3)		反復(繰り返し)処理に関する基本事項		
第22週	総合演習		アルゴリズムに関する基本事項		
第23週	アルゴリズムの基礎(4)		反復(繰り返し)処理に関する基本事項		
第24週	データ構造の基礎(1)		1次元配列に関する基本事項		
第25週	データ構造の基礎(2)		2次元配列、配列の応用に関する基本事項		
第26週	文字列の処理(1)		文字列の定義に関する基本事項		
第27週	文字列の処理(2)		文字列関数、文字列ステートメントに関する基本事項		
第28週	グラフィックス(1)		図形の描画、座標系に関する基本事項		
第29週	グラフィックス(2)		描画メソッドに関する基本事項		
第30週	グラフィックス(3)		画像の取り扱いに関する総合演習		
後期期末試験	実施する				
教科書					
参考図書	エンジニアのためのプログラミング入門 -VB.NETによるプログラミングの基礎-、大槻正伸、電気書院				
評価方法	課題60%および小テスト40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
言語コミュニケーション Verbal Communication	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一
授業概要	ことばによるコミュニケーションのさまざまな事象を歴史的に概観する。あわせてことばが人間の社会行動とどのようにかかわり合っているか等の問題を構造的に捕らえる目を養う。日本語文章表現能力を養う。				
到達目標	①古代の歴史と言語文化の関係を把握する。 ②中世の歴史と言語文化の関係を把握する。 ③近現代の歴史と言語文化の関係を把握する。 ④現代日本人のエスニシティを認識する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-4), (F-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	文化は人間の精神活動の結果であり、その中心に言語がある。これまでに学んできたあらゆる知識を言語を中心に再構築してみよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ことばと文化(1)	ことばの構造、文化の構造			
第2週	ことばと文化(2)	文字と言語の関係、物とことば、かくれた基準			
第3週	日本人の成立(1)	考古学的に見た日本人(1)			
第4週	日本人の成立(2)	考古学的に見た日本人(2)			
第5週	日本人の成立(3)	卑弥呼について、倭の成立			
第6週	日本の神話(1)	イザナギとイザナミ、日本人の穢れ思想について			
第7週	前期中間試験				
第8週	日本の神話(2)	古事記、日本人の怨霊思想について			
第9週	古代・中世の言霊思想と文化(1)	聖徳太子の「和」、東大寺の大仏の建立			
第10週	古代・中世の言霊思想と文化(2)	平安京の遷都、武士の出現と貴族との関係			
第11週	古代・中世の言霊思想と文化(3)	漢字とひらがな、和文の創造			
第12週	古代・中世の言霊思想と文化(4)	万葉集、古今和歌集、土佐日記、源氏物語			
第13週	古代・中世の言霊思想と文化(5)	神道と仏教(1) 神仏習合			
第14週	古代・中世の言霊思想と文化(6)	神道と仏教(2) 日本人の宗教観			
第15週	前期学習したことの総括	前期末試験解答用紙の返却、解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	江戸期の言語文化(1)	蘭学について、オランダ商館の役割			
第17週	江戸期の言語文化(2)	本草学について、博物学の発展の形態			
第18週	江戸期の言語文化(3)	ケンペル・ツェンペリ・シーボルト			
第19週	幕末・明治の言語文化(1)	寺子屋、蘭学・国学、化政文化との関連			
第20週	幕末・明治の言語文化(2)	五箇条の御誓文の意味			
第21週	幕末・明治の言語文化(3)	幕末&#12316;明治期における外国語の日本語翻訳			
第22週	後期中間試験				
第23週	現代日本の言語文化(1)	福沢諭吉、西周、正岡子規、夏目漱石			
第24週	現代日本の言語文化(2)	韓国の言語事情と日本語との比較			
第25週	現代日本の言語文化(3)	ピジンとクレオール			
第26週	現代日本の言語文化(4)	日本人の名前の特徴(1)			
第27週	現代日本の言語文化(5)	日本人の名前の特徴(2)			
第28週	現代日本の言語文化(6)	言葉の言い換え、差別用語			
第29週	現代日本の言語文化(7)	現代人の穢れ思想、言霊思想			
第30週	後期学習したことの総括	期末期末試験解答用紙の返却、解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	配布資料				
参考図書	閉ざされた言語日本語の世界、鈴木孝夫、新潮社 / 日本語はいかにつくられたか、小池清治、筑摩書房 / 古事記 その他講義中に指示する。				
評価方法	定期試験 70%、豆テスト、課題等 30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス事情演習 Seminar on Business Topics	3	1 (30)	選択	集中 週1時間 C	芥川一則
授業概要	企業を就職活動を通して理解することを目的とする。このため企業と自分とのマッチングを図る方法について説明する。企業分析及び自己分析の方法を理解する。				
到達目標	①公開されて情報の収集方法を習得する。 ②企業分析の手法を習得する。 ③自己分析の手法を習得する。 ④自己PR方法を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:4). 6).				
履修上の注意	就職活動に必要な書類の制作を行う。このため各自が企業研究を行うこと。また、集中講義のため自学自習が集中するので計画的に作業を行うこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	はじめに		授業の進め方		
第2週	就職活動(1)		人材派遣企業とそのシステム		
第3週	就職活動(2)		業界及び業種		
第4週	自己分析(1)		適性検査と長所と短所分析		
第5週	自己分析(2)		他個分析		
第6週	自己分析(3)		自分史の作成と時系列分析		
第7週	企業分析(1)		情報の収集方法		
第8週	企業分析(2)		企業分析演習①		
第9週	企業分析(3)		企業分析演習②		
第10週	企業分析(4)		発表会①		
第11週	企業分析(5)		発表会②		
第12週	企業分析(6)		発表会③		
第13週	企業分析(7)		エントリーの作成①		
第14週	企業分析(8)		エントリーの作成②		
第15週	書類作成		履歴書の作成		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週					
第17週					
第18週					
第19週					
第20週					
第21週					
第22週					
第23週					
第24週					
第25週					
第26週					
第27週					
第28週					
第29週					
第30週					
後期期末試験	実施する				
教科書					
参考図書					
評価方法	発表会及び質疑40%、エントリーシート30%、履歴書30%として総合的に評価する。				



授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教員
セミナー Seminar	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	コミュニケーション情報学科 全教員
授業概要	5年次の卒業研究へ継続できるように、卒業研究の予備演習として各教員の研究室に配属する。				
到達目標	指導教員の研究領域を理解し、卒業研究の方向性を決める。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応：(B-2). (B-4). (D-4). (F-1). (F-2). (F-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：3). 4). 5). 6).				
履修上の注意	自ら主体的に問題を発見し、その解決方法を探る。自主性、独創性、創造性を培うこと。 なお、配属先の決定は選抜によるが、各研究室の定員は概ね5名程度である。				
授業計画	<p>脇田淳一 統計的品质管理入門、ゼミ形式で授業を行う、レポートおよび試験で評価する。</p> <p>森川 治 経済数学・ゲーム理論入門、ゼミと演習、課題とレポートで評価する。</p> <p>芥川一則 都市・地域経済学、ゼミ形式で授業を行う、「都市経済学の基礎」有斐閣アルマを使用、定期試験70%、発表内容30%で評価する。</p> <p>渡部美紀子 会計学入門、発表の内容、レポートおよび試験で評価する。</p> <p>松江俊一 言語文化社会論、ゼミ形式の授業（前期）、文献講読および発表（後期）、レポート70%、発表30%で評価する。</p> <p>高村 浩 ソフトウェア全般に関する基礎知識の習得、文献の講読、実行環境の構築、課題システムの作成等、レポート50%およびシステムの完成度50%により評価する。</p> <p>松本行真 マーケティングに関連する文献を輪読する。レジュメ、レポート、発表内容を総合的に評価する。</p>				
教科書	指導教員の指示による。				
参考図書					
評価方法	指導教員の評価基準により判定する（授業計画の欄参照）。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営学 Introduction to Management	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 順一
授業概要	経営学を初めて学ぶ学生のための入門(総論)的な授業である。				
到達目標	①企業形態論に関する基礎的な知識を習得する。②経営学説史に関する基礎的な知識を習得する。③経営組織論に関する基礎的な知識を習得する。④個別の経営理論に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:4).				
履修上の注意	新聞等を毎日読んで、最新の経営事情についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		授業の進め方とレポートの書き方		
第2週	経営学と企業の特徴(1)		経営学とその位置づけ		
第3週	経営学と企業の特徴(2)		企業の特徴と企業の種類		
第4週	経営学と企業の特徴(3)		株式会社の特徴と仕組み		
第5週	経営学と企業の特徴(4)		所有と経営の分離		
第6週	経営学と企業の特徴(5)		現代企業の組織構造		
第7週	前期中間試験				
第8週	経営理論の流れ(1)		テイラー		
第9週	経営理論の流れ(2)		フォード		
第10週	経営理論の流れ(3)		ファヨール		
第11週	経営理論の流れ(4)		人間関係論		
第12週	経営理論の流れ(5)		アージリス, マズロー		
第13週	経営理論の流れ(6)		マグレガー, ハーズバーグ		
第14週	総合演習		これまでの復習		
第15週	前期学習したことの総括		前期期末試験解答用紙の返却と解説		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	経営理論の流れ(7)		バーナード		
第17週	経営理論の流れ(8)		サイモン		
第18週	経営理論の流れ(9)		コンティンジェンシー理論		
第19週	経営理論の流れ(10)		組織間関係論		
第20週	経営組織の特徴と理論(1)		基本的な組織形態		
第21週	経営組織の特徴と理論(2)		様々な組織形態		
第22週	後期中間試験				
第23週	個別の管理論および経営論(1)		経営戦略		
第24週	個別の管理論および経営論(2)		人事管理論		
第25週	個別の管理論および経営論(3)		リーダーシップ論		
第26週	個別の管理論および経営論(4)		マーケティング論		
第27週	個別の管理論および経営論(5)		グローバル戦略		
第28週	個別の管理論および経営論(6)		日本の経営論		
第29週	総合演習		これまでの復習		
第30週	後期学習したことの総括		後期期末試験解答用紙の返却と解説		
後期期末試験	実施する				
教科書					
参考図書	テキスト経営学(増補版), 井原久光, ミネルヴァ書房				
評価方法	定期試験70%, 課題等30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
確率統計学 Statistics	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	森川 治
授業概要	統計学の基礎概念である確率及び分布を学習する。				
到達目標	①確率の意味を理解し、基礎的な問題が解けること。 ②分布の性質を理解し、分布表が使いこなせること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2). (D-3). (D-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2). 4).				
履修上の注意	問題を数多く解き、概念を習得すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	確率論入門(1)	個数の数え方			
第2週	確率論入門(2)	順列の復習			
第3週	確率論入門(3)	組み合わせの復習			
第4週	確率論入門(4)	確率の定義			
第5週	確率論入門(5)	確率の意味			
第6週	確率論入門(6)	確率の計算			
第7週	前期中間試験				
第8週	確率論入門(7)	条件付確率			
第9週	確率論入門(8)	ベイズの定理			
第10週	確率論入門(9)	確率変数			
第11週	確率論入門(10)	確率変数の平均と分散			
第12週	確率論入門(11)	確率変数の和と積			
第13週	確率論入門(12)	確率、確率変数の総合演習(1)			
第14週	確率論入門(13)	確率、確率変数の総合演習(2)			
第15週	前期に学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却、解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	確率分布入門(1)	二項分布			
第17週	確率分布入門(2)	ポアソン分布			
第18週	確率分布入門(3)	二項分布とポアソン分布の関係			
第19週	確率分布入門(4)	連続分布			
第20週	確率分布入門(5)	正規分布			
第21週	確率分布入門(6)	正規分布表の使い方			
第22週	後期中間試験				
第23週	確率分布入門(7)	正規分布と二項分布の関係			
第24週	確率分布入門(8)	中心極限定理			
第25週	確率分布入門(9)	正規分布の総合演習(1)			
第26週	確率分布入門(10)	正規分布の総合演習(2)			
第27週	確率分布入門(11)	カイ二乗分布			
第28週	確率分布入門(12)	t分布			
第29週	確率分布入門(13)	F分布			
第30週	後期に学習したことの総括	後期期末試験解答用紙の返却、解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	確率統計、田河生長他著、大日本図書				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、小テスト20%で評価します。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営数学演習 I Exercises 1 in Management Mathematics	4	2 * (30)	必修	前期 週 2 時間 B	森川 治
授業概要	経営に必要な微分法および積分法の基礎を学習する。				
到達目標	①経営で必要とされる最大・最小問題が解ける。 ②積分の意味を理解し、基礎的積分問題が解ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1). (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	問題を数多く解き、概念の理解に努める。自学自習の確認方法:課題プリントを学生に配布し提出させる。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第 1週	微分法(1)		微分(経営数学)の復習		
第 2週	微分法(2)		微分(経営数学)の復習		
第 3週	微分法(3)		偏導関数		
第 4週	微分法(4)		合成関数の偏導関数		
第 5週	微分法(5)		2変数関数の極大・極小		
第 6週	微分法(6)		総合演習		
第 7週	前期中間試験				
第 8週	微分法(7)		条件付極大・極小		
第 9週	微分法(8)		経営・経済への応用(1)		
第10週	微分法(9)		経営・経済への応用(2)		
第11週	積分法(1)		微分(経営数学)の復習		
第12週	積分法(2)		区分求積法		
第13週	積分法(3)		積分の応用		
第14週	積分法(4)		総合演習		
第15週	前期で学習したことの総括		前期期末試験解答用紙の返却、解説		
前期期末試験	実施する				
教科書	新編高専の数学2、田代嘉宏著。森北出版				
参考図書					
評価方法	定期試験80%、小テスト20%で評価します。				

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経済学演習 I Economics Practice 1	4	2 * (30)	必修	後期 週 2 時間 A	芥川 一則
授業概要	社会を経済学的に理解するために必要な知識を得ることを目的とする。このため日常生活における出来事を経済学的な視点から捉えられるようにする。				
到達目標	①物価の基本的な意味が説明できる。 ②金融についての基本的な仕組みが説明できる。 ③国民経済の基本的な仕組みが説明できる。 ④国際経済の基本的な用語が説明できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (C-1), (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:3).				
履修上の注意	専門用語の復習に十分努めること。歴史的な経済の出来事を各自復習しておくとともに、新聞等で最新の経済動向を把握しておくこと。自学自習の確認方法:課題プリントを学生に配布し提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	物価指数 インフレーションとデフレーション インフレーションの種類とその対策 貨幣の機能と信用創造 直接金融と間接金融 金融機関と金融政策 総合演習 国民所得の概念 三面等価 経済成長率 国際経済(1) 国際経済(2) 国際経済(3) 国際経済(4) 総合演習 実施する	計算方法及びその評価 そのメカニズムと経済的意味 発生メカニズムと周期性 歴史的発展とそのメカニズム そのメカニズムと特徴 公定歩合、公開市場操作、準備預金制度 確認テスト 各指標とその評価 そのメカニズムと意味 計算方法と指標の評価 国際分業 貿易形態 国際収支 外国為替 専門用語の確認			
教科書	入門マクロ経済学、嶋村紘輝他、中央経済社				
参考図書	新版ミクロ経済学、嶋村紘輝、成文堂				
評価方法	定期試験の成績を80%、総合テスト及び課題を20%として総合的に評価する。				

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経営情報システム演習 Exercises in Administration Information Systems	4	2 * (30)	必修	前期 週2時間 A	脇田 淳一
授業概要	品質特性を支配する種々の要因を抽出するための分散分析の考え方を学ぶ。				
到達目標	①基礎的な分散分析の手法を理解する。 ②問題解決の合理的なアプローチ方法を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-2). (E-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2). 5).				
履修上の注意	経営情報システム基礎を理解しておくことが必要。 自学自習の確認方法－課題プリントを学生に配布し提出させる。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	イントロダクション 分散分析とは 統計的分析の基礎(1) 統計的分析の基礎(2) 統計的分析の基礎(3) 統計的分析の基礎(4) 前期中間試験 一元配置実験(1) 一元配置実験(2) 二元配置実験(1) 二元配置実験(2) 二元配置実験(3) 二元配置実験(4) 二元配置実験(5) 学習したことの総括 実施する		概要と授業ガイダンス 実験計画の型、交互作用とは 母集団と試料、統計量 正規分布 F分布 仮説検定の考え方  ばらつきの分解 分散分析 繰り返しのない場合のばらつきの分解 繰り返しのない場合の分散分析 繰り返しのある場合のばらつきの分解 繰り返しのある場合の分散分析 総合問題演習 前期期末試験解答用紙の返却、解説		
教科書	適宜プリントを配布する				
参考図書	実験計画法入門、鷺尾泰俊、日本規格協会				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題の成績を20%で評価する。				

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
異文化コミュニケーション入門 Cross-Cultural Communication	4	2 * (30)	必修	後期 週2時間 C	松江 俊一
授業概要	①主に日本に近接する環日本海諸国(主に日本、中国、韓国、ロシア)の異文化交流を歴史的に概観する。②ロシア語の初級レベルをコミュニケーション能力を重視して学ぶ。				
到達目標	①現在の日中、日韓(朝鮮半島)、日露関係及び相互関係の成り立ちを理解し、日本語で表現できる。 ②ロシア語の基本文法、語彙を駆使して、基本的な会話パターンを習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3), (D-4), (F-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	授業:前半は講義が中心となるが、講義内容を理解するためにも積極的に読書等で知識を持つように努力すること。後半はロシア語の基礎を学ぶ。自学自習の確認方法:①講義内容のレジюмеや課題図書等のレジюмеを作成する。②宿題の文章を声と文字で暗記する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	日・中・朝鮮関係史1 日・中・朝鮮関係史2 日・中・朝鮮関係史3 日・中・朝鮮関係史4 日・中・朝鮮関係史5 日・中・朝鮮関係史6 後期中間試験 日欧関係史1 日欧関係史2 日欧関係史3 日露関係史1 日露関係史2 日露関係史3 日露関係史4 学習したことの総括 実施する	日本人、中国人、朝鮮人の起源 縄文期の日・中・朝鮮関係 弥生期の日・中・朝鮮関係 飛鳥・奈良時代の日・中・朝鮮関係 平安時代の日・中・朝鮮関係 鎌倉期・江戸期の日・中・朝鮮関係  江戸期の日本人とオランダ商館 ツェンペリ、ケンペル、シーボルト 元禄・化政文化の海外流布 江戸期の日本における国際交流 幕末の日本における国際交流 幕末の日露関係 明治期の日露関係 期末試験解答用紙の返却、解説	ロシア語の体系 アルファベット 文字と発音、自己紹介の表現 文字と発音、挨拶、謝意の表現 基本文型1、依頼の表現 基本文型2、所有の表現 名詞の性、正書法規則  対格、依頼の表現2 運動の動詞1、依頼の表現3 前置格、時間の表現 運動の動詞2、場所の表現 形容詞、場所の表現2 未来形、好みの表現 過去形、場所の表現3		
教科書	『ロシア語教程』狩野亨他著、ナウカ出版				
参考図書	『北東アジア事典』環日本海学会編、国際書院、『新ロシア語教程』狩野亨他、ナウカ				
評価方法	定期試験 50%、課題 50%で評価する。				

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
非言語コミュニケーション Nonverbal Communication	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一 平塚 力
授業概要	(前期)非言語コミュニケーションの基本要素を学びながら人間関係の諸相を概観する。 (後期)組織心理学を基本として、個人、集団、組織の関係を多方面から学習する。				
到達目標	(前期)①心理学の基礎を習得する。②自己分析及びプレゼンテーションの基礎を習得する。 (後期)①個人と組織の関係についての知識を習得する。②マクロ要因と組織行動についての知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-2). (D-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	(前期)講義メモをしっかりとること。自己と照らし合わせて考えること。 (後期)日常の経済活動における個人、集団、組織に関心をもって欲しい。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	九つの非言語メディア、高・低コンテクスト文化			
第2週	非言語メディア1	ボディ・メッセージ			
第3週	非言語メディア2	動作と表情、視線、インプリシット効果			
第4週	非言語メディア3	周辺言語、沈黙、声調と性格の関連性			
第5週	非言語メディア4	時間・空間・距離・色彩、縄張と間合い			
第6週	自己表現技法1	欲求のコントロール、エトス、ペルソナ			
第7週	自己表現技法2	リーダーシップ			
第8週	自己表現技法3	フェアネス効果、セイリエンス効果			
第9週	自己実現1	常識と良識、マナー			
第10週	自己実現2	うそと偏見、コンプレックス			
第11週	自己実現3	絶対と相対、客観と主観、思い込み			
第12週	自己実現4	外的適応と内的適応、アサーション			
第13週	自己実現5	ネットワークアイデンティティ			
第14週	自己実現6	偶然・必然と体験の意味、キャリアデザイン			
第15週	前期学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却と解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	心理学の方法	組織と人間			
第17週	オープン・システムとしての組織	組織と環境			
第18週	社会性とキャリア	組織目標と自我の没入			
第19週	モチベーション	モチベーションの理論			
第20週	組織ストレス	組織のなかのストレス			
第21週	ジョブ・デザイン	ジョブ・デザインの手法			
第22週	自律性とプロフェッショナリズム	組織人における自由の領域			
第23週	コミュニケーションと意思決定	コミュニケーションと参加			
第24週	グループ・ダイナミクス	小集団の積極的活用			
第25週	対人葛藤	対人葛藤の動態			
第26週	リーダーシップ	リーダーシップの理論			
第27週	組織文化	組織文化の形成			
第28週	パワーと管理者	パワー・ポリティクス			
第29週	組織の革新	組織デザインの方法			
第30週	後期学習したことの総括	後期期末試験解答用紙の返却と解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	『プレゼンに勝つ、「魅せ方」の技術』佐藤綾子著、ダイヤモンド社、及び配布資料				
参考図書	(前期)『日本人の心のゆくえ』河合隼雄著、岩波書店、『非言語コミュニケーション』マジリィー・ヴァーカス著、新潮社『アサーショントレーニング』平木典子著、金子書房 他、 (後期)組織の心理学[新版]、田尾雅夫、有斐閣				
評価方法	(前期)定期試験70%、課題等30%として総合的に評価する。 (後期)定期試験70%、課題等30%として総合的に評価する。				



授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス英語入門 Introduction to Business English	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	米本 清
授業概要	アメリカ3大ネットワーク、ABCニュースを通して時事英語の語彙、文法、リスニングに習熟しコミュニケーション能力を高める。				
到達目標	①英語ニュースの聞き取りを通して生きた英語表現を身につける。 ②ニュース英語の特徴である短い語彙に慣れる。 ③テレビニュースの構成に習熟する。 ④ニュースで得た情報をもとにディスカッションするコツを学ぶ。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	毎回授業の開始時にディクテーションテストを行うので遅れないこと。また全員を指名するので必ず予習してくること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	1. Inside North Korea (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第2週	1. The Battle for Ohio (2)	ニュースに関するディスカッション			
第3週	2. America's Pumpered Pets (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第4週	2. America's Pumpered Pets (2)	ニュースに関するディスカッション			
第5週	3. Pilgrimage to Rome (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第6週	3. Pilgrimage to Rome (2)	ニュースに関するディスカッション			
第7週	4. Fighting Junk Food in Schools (1)	グループディスカッション			
第8週	4. Fighting Junk Food in Schools (2)	ニュースに関するディスカッション			
第9週	5. Terri Schiavo Case (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第10週	5. Terri Schiavo Case (2)	ニュースに関するディスカッション			
第11週	6. Shark Fighters (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第12週	6. Shark Fighters (2)	ニュースに関するディスカッション			
第13週	7. Small Steps (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第14週	7. Small Steps (2)	ニュースに関するディスカッション			
第15週	8. Laughter: The Best Medicine (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	8. Laughter: The Best Medicine (2)	ニュースに関するディスカッション			
第17週	9. Measuring Success (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第18週	9. Measuring Success (2)	ニュースに関するディスカッション			
第19週	10. Girl Scout Cookies (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第20週	10. Girl Scout Cookies (2)	ニュースに関するディスカッション			
第21週	11. Selling Identities (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第22週	11. Selling Identities (2)	ニュースに関するディスカッション			
第23週	12. Pond Hockey (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第24週	12. Pond Hockey (2)	ニュースに関するディスカッション			
第25週	13. DNA Tests (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第26週	13. DNA Tests (2)	ニュースに関するディスカッション			
第27週	14. Woman and Science (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第28週	14. Woman and Science (2)	ニュースに関するディスカッション			
第29週	15. Border Patrol (1)	ニュースのディクテーションと内容理解			
第30週	15. Border Patrol (2)	ニュースに関するディスカッション			
後期末試験	実施する				
教科書					
参考図書	ABC World News 8、山根 繁/Kathleen Yamane、金星堂				
評価方法	定期試験90%、小テスト10%とし総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
プログラミング基礎 Basic Programming	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	島村 浩
授業概要	プログラミング言語を用いて、簡単なプログラムを作成・実行し、プログラミングの基本技術を習得する。				
到達目標	①基本制御構造を理解し、流れ図等で記述できること。 ②流れ図等を基にして、プログラムが作成できること。 ③配列について理解し、簡単なプログラムが作成できること。 ④オブジェクト指向を理解し、概念が説明できること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3), (B-4), (D-2), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5), 6).				
履修上の注意	自分の頭で考えること。実際に実行してみる。論理設計を基に実際にプログラムを作成、実行することによって検証する。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	プログラミングの基礎(1)		ソフトウェアの種類、OSの種類、言語処理系		
第2週	プログラミングの基礎(2)		基本制御構造、データ構造		
第3週	アルゴリズムの基礎(1)		アルゴリズムの記述方法、流れ図		
第4週	アルゴリズムの基礎(2)		基本制御構造		
第5週	アルゴリズムの基礎(3)		順次(逐次)処理		
第6週	アルゴリズムの基礎(4)		分岐(選択)処理		
第7週	前期中間試験				
第8週	アルゴリズムの基礎(5)		分岐(選択)処理		
第9週	アルゴリズムの基礎(6)		反復(繰り返し)処理		
第10週	アルゴリズムの基礎(7)		反復(繰り返し)処理		
第11週	アルゴリズムの基礎(8)		反復(繰り返し)処理		
第12週	アルゴリズムの基礎(9)		反復(繰り返し)処理		
第13週	データ構造の基礎(1)		1次元配列		
第14週	データ構造の基礎(2)		2次元配列		
第15週	データ構造の基礎(3)、まとめ		配列の応用、期末試験の解説		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	文字列の処理(1)		文字列の定義		
第17週	文字列の処理(2)		文字列関数、文字列ステートメント		
第18週	グラフィックス(1)		図形の描画、座標系		
第19週	グラフィックス(2)		描画メソッド		
第20週	グラフィックス(3)		画像の取り扱い		
第21週	グラフィックス(4)		グラフィックスの応用		
第22週	後期中間試験				
第23週	課題演習		課題プログラムの作成		
第24週	ファイルの処理(1)		ファイルの種類、ファイル入出力		
第25週	ファイルの処理(2)		データファイルの利用方法		
第26週	総合演習(1)		演習問題		
第27週	総合演習(2)		演習問題		
第28週	総合演習(3)		演習問題		
第29週	その他の言語		C、C++、Java、各種スクリプト言語		
第30週	最新技術動向、まとめ		オブジェクト指向言語の動向等、期末試験の解説		
後期期末試験	実施する				
教科書	エンジニアのためのプログラミング入門 -VB.NETによるプログラミングの基礎-、大槻正伸、電気書院				
参考図書	実習 Visual Basic.NET -だれでもわかるプログラミング-、林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子、サイエンス社				
評価方法	定期試験の成績70%、課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
プログラミング演習 Programming Practice	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	島村 浩
授業概要	C言語を用いて、応用的なプログラムを作成・実行し、プログラムの作成技術を習得する。				
到達目標	①基本制御構造を理解し、流れ図等で記述できること。 ②流れ図等を基にして、プログラムが作成できること。 ③配列について理解し、簡単なプログラムが作成できること。 ④オブジェクト指向を理解し、概念が説明できること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (B-4). (D-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5). 6).				
履修上の注意	自分の頭で考えること。実際に実行してみる。論理設計を基に実際にプログラムを作成、実行することによって検証する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	プログラミングの基礎(1) プログラミングの基礎(2) アルゴリズムの基礎(1) アルゴリズムの基礎(2) アルゴリズムの基礎(3) アルゴリズムの基礎(4) 課題演習 アルゴリズムの基礎(5) アルゴリズムの基礎(6) データ構造の基礎(1) データ構造の基礎(2) データ構造の基礎(3) データ構造の基礎(4) データ構造の基礎(5) 課題演習 実施しない 文字列の処理(1) 文字列の処理(2) グラフィックス(1) グラフィックス(2) グラフィックス(3) グラフィックス(4) 課題演習(1) 課題演習(2) ファイルの処理(1) ファイルの処理(2) 総合演習(1) 総合演習(2) 総合演習(3) その他の言語 最新技術動向 実施しない	ソフトウェアの種類、OSの種類、言語処理系 基本制御構造、データ構造、言語処理系の使用方法 アルゴリズムの記述方法、流れ図 基本制御構造 順次(逐次)処理 分岐(選択)処理 基本アルゴリズム 反復(繰り返し)処理 反復(繰り返し)処理 1次元配列 2次元配列 配列の応用 構造体 構造体 データ構造の基本  文字列の定義 文字列関数、文字列ステートメント 図形の描画、座標系 描画メソッド 画像の取り扱い グラフィックスの応用 グラフィックスプログラムの作成 グラフィックスプログラムの作成 ファイルの種類、ファイル入出力 データファイルの利用方法 演習問題 演習問題 演習問題 Java、各種スクリプト言語 最近のプログラム言語の動向等			
教科書	実習Visual C++.NET だれでもわかるプログラミング、児玉靖司、小川久夫、入戸野健、サイエンス社				
参考図書	エンジニアのためのプログラミング入門 -VB.NETによるプログラミングの基礎-、大槻正伸、電気書院 実習 Visual Basic.NET-だれでもわかるプログラミング-、林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子、サイエンス社				
評価方法	課題50%およびレポート50%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
マーケティング論 Marketing	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松本 行真
授業概要	前期ではマーケティングの標準的な概念と議論、また事例の収集と検討方法について学ぶ。 後期ではマーケティングの限界とその課題を検討していく。				
到達目標	①いくつかあるマーケティングのフレームを理解できる ②フレームの使い方を理解できる ③新聞雑誌等からの事例収集と検討ができる ④マーケティングの有用性と限界を理解できる				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (C-4). (C-6). (D-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:3). 4).				
履修上の注意	日経本誌はもとより、日経MJ、他ビジネス雑誌、専門誌は常にチェックしてもらいたい。また、事例収集は地道な作業なので、常日頃まじめに取り組むこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	マーケティング戦略への招待、事業機会の選択	マーケティング4P、ポートフォリオ戦略	マーケティングの今日的課題 マーケティングの神話 製品開発の2つの立脚点 調査結果の読み方 消費者へのアプローチ方法 需要予測の限界 流行の盛衰プロセス 消費者心理と価格のバランス 顧客データベースと消費者の関係 マーケティングの有用性と限界		
第2週	事業領域の選択	事業の定義			
第3週	標的市場の選択	セグメンテーション、ターゲティング			
第4週	市場データ分析	データ収集の方法			
第5週	消費者行動分析	SORモデル研究、情報処理研究など			
第6週	競争分析	5つの競争要因、戦略グループなど			
第7週	流通分析	チャネル戦略			
第8週	製品対応	マーケティングの中核としての製品戦略			
第9週	価格対応	価格設定のマーケティング戦略			
第10週	コミュニケーション対応	消費者への効果的な情報伝達			
第11週	流通チャネル対応	流通環境の変化に対応したチャネル戦略			
第12週	競争対応	競争優位のための戦略対応			
第13週	サービス・マーケティング	サービス業のマーケティング戦略			
第14週	ソーシャル・マーケティング	マーケティングと社会の関わり			
第15週	関係性マーケティング	インタラクション重視のマーケティング			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	マーケティングを問い直す(1)				
第17週	マーケティングを問い直す(2)				
第18週	マーケティングを問い直す(3)				
第19週	マーケティング調査の是非(1)				
第20週	マーケティング調査の是非(2)				
第21週	消費者理解の方法(1)				
第22週	消費者理解の方法(2)				
第23週	需要予測の方法(1)				
第24週	需要予測の方法(2)				
第25週	ブームの予測について(1)				
第26週	ブームの予測について(2)				
第27週	最適価格(1)				
第28週	最適価格(2)				
第29週	CRMの是非				
第30週	マーケティングと消費者				
後期期末試験	実施する				
教科書	『マーケティング戦略 第3版』、和田・恩蔵・三浦、有斐閣アルマ				
参考図書	①『製品・ブランド戦略』、青木・恩蔵、有斐閣アルマ②『価格・プロモーション戦略』、上田・守口、有斐閣アルマ ③『流通・営業戦略』、小林・南、有斐閣アルマ④『消費者・コミュニケーション戦略』、田中・清水、有斐閣アルマ ⑤『マーケティングの神話』石井淳蔵、岩波書店				
評価方法	定期試験の成績を70%、課題を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
プログラミング演習 Programming Practice	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	島村 浩
授業概要	C言語を用いて、応用的なプログラムを作成・実行し、プログラムの作成技術を習得する。				
到達目標	①基本制御構造を理解し、流れ図等で記述できること。 ②流れ図等を基にして、プログラムが作成できること。 ③配列について理解し、簡単なプログラムが作成できること。 ④オブジェクト指向を理解し、概念が説明できること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3), (B-4), (D-2), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5), 6).				
履修上の注意	自分の頭で考えること。実際に実行してみる。論理設計を基に実際にプログラムを作成、実行することによって検証する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	プログラミングの基礎(1)	ソフトウェアの種類、OSの種類、言語処理系			
第2週	プログラミングの基礎(2)	基本制御構造、データ構造、言語処理系の使用法			
第3週	アルゴリズムの基礎(1)	アルゴリズムの記述方法、流れ図			
第4週	アルゴリズムの基礎(2)	基本制御構造			
第5週	アルゴリズムの基礎(3)	順次(逐次)処理			
第6週	アルゴリズムの基礎(4)	分岐(選択)処理			
第7週	課題演習	基本アルゴリズム			
第8週	アルゴリズムの基礎(5)	反復(繰り返し)処理			
第9週	アルゴリズムの基礎(6)	反復(繰り返し)処理			
第10週	データ構造の基礎(1)	1次元配列			
第11週	データ構造の基礎(2)	2次元配列			
第12週	データ構造の基礎(3)	配列の応用			
第13週	データ構造の基礎(4)	構造体			
第14週	データ構造の基礎(5)	構造体			
第15週	課題演習	データ構造の基本			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	文字列の処理(1)	文字列の定義			
第17週	文字列の処理(2)	文字列関数、文字列ステートメント			
第18週	グラフィックス(1)	図形の描画、座標系			
第19週	グラフィックス(2)	描画メソッド			
第20週	グラフィックス(3)	画像の取り扱い			
第21週	グラフィックス(4)	グラフィックスの応用			
第22週	課題演習(1)	グラフィックスプログラムの作成			
第23週	課題演習(2)	グラフィックスプログラムの作成			
第24週	ファイルの処理(1)	ファイルの種類、ファイル入出力			
第25週	ファイルの処理(2)	データファイルの利用方法			
第26週	総合演習(1)	演習問題			
第27週	総合演習(2)	演習問題			
第28週	総合演習(3)	演習問題			
第29週	その他の言語	Java、各種スクリプト言語			
第30週	最新技術動向	最近のプログラム言語の動向等			
後期期末試験	実施しない				
教科書	実習Visual C++.NET だれでもわかるプログラミング、児玉靖司、小川久夫、入野野健、サイエンス社				
参考図書	エンジニアのためのプログラミング入門 -VB.NETによるプログラミングの基礎-、大槻正伸、電気書院 実習 Visual Basic.NET-だれでもわかるプログラミング-、林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子、サイエンス社				
評価方法	課題50%およびレポート50%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
マーケティング論 Marketing	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松本 行真
授業概要	前期ではマーケティングの標準的な概念と議論、また事例の収集と検討方法について学ぶ。後期ではマーケティングの限界とその課題を検討していく。				
到達目標	①いくつかあるマーケティングのフレームを理解できる ②フレームの使い方を理解できる ③新聞雑誌等からの事例収集と検討ができる ④マーケティングの有用性と限界を理解できる				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (C-4), (C-6), (D-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:3), 4).				
履修上の注意	日経本誌はもとより、日経MJ、他ビジネス雑誌、専門誌は常にチェックしてもらいたい。また、事例収集は地道な作業なので、常日頃まじめに取り組むこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	マーケティング戦略への招待、事業機会の選択		マーケティング4P、ポートフォリオ戦略		
第2週	事業領域の選択		事業の定義		
第3週	標的市場の選択		セグメンテーション、ターゲティング		
第4週	市場データ分析		データ収集の方法		
第5週	消費者行動分析		SORモデル研究、情報処理研究など		
第6週	競争分析		5つの競争要因、戦略グループなど		
第7週	流通分析		チャンネル戦略		
第8週	製品対応		マーケティングの中核としての製品戦略		
第9週	価格対応		価格設定のマーケティング戦略		
第10週	コミュニケーション対応		消費者への効果的な情報伝達		
第11週	流通チャンネル対応		流通環境の変化に対応したチャンネル戦略		
第12週	競争対応		競争優位のための戦略対応		
第13週	サービス・マーケティング		サービス業のマーケティング戦略		
第14週	ソーシャル・マーケティング		マーケティングと社会の関わり		
第15週	関係性マーケティング		インタラクション重視のマーケティング		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	マーケティングを問い直す(1)		マーケティングの今日的課題		
第17週	マーケティングを問い直す(2)		マーケティングの神話		
第18週	マーケティングを問い直す(3)		製品開発の2つの立脚点		
第19週	マーケティング調査の是非(1)		調査結果の読み方		
第20週	マーケティング調査の是非(2)				
第21週	消費者理解の方法(1)		消費者へのアプローチ方法		
第22週	消費者理解の方法(2)				
第23週	需要予測の方法(1)		需要予測の限界		
第24週	需要予測の方法(2)				
第25週	ブームの予測について(1)		流行の盛衰プロセス		
第26週	ブームの予測について(2)				
第27週	最適価格(1)		消費者心理と価格のバランス		
第28週	最適価格(2)				
第29週	CRMの是非		顧客データベースと消費者の関係		
第30週	マーケティングと消費者		マーケティングの有用性と限界		
後期期末試験	実施する				
教科書	『マーケティング戦略 第3版』、和田・恩蔵・三浦、有斐閣アルマ				
参考図書	①『製品・ブランド戦略』、青木・恩蔵、有斐閣アルマ②『価格・プロモーション戦略』、上田・守口、有斐閣アルマ ③『流通・営業戦略』、小林・南、有斐閣アルマ④『消費者・コミュニケーション戦略』、田中・清水、有斐閣アルマ ⑤『マーケティングの神話』石井淳蔵、岩波書店				
評価方法	定期試験の成績を70%、課題を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
財務会計 Financial Accounting	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 美紀子
授業概要	ビジネスの基礎といわれる会計を学ぶ。全経簿記2級以上の商業簿記を学習する。『簿記入門』で学んだ簿記一巡の手続きをもとに、株式会社の経理一般の概要を把握することを目的とする。				
到達目標	①株式会社の基本的な会計処理が理解出来る。 ②株式会社の財務諸表が作成出来る。 ③簿記能力検定試験2級の取得を目指し、検定レベルの問題を解くことが出来る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	講義時間以外の自己学習、特に復習と問題演習が必要不可欠である。簿記能力検定の過去問題にも積極的に取り組むこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		授業の進め方		
第2週	初級簿記の復習		見越、繰延		
第3週	商品売買の処理		売上原価の算定と損益勘定		
第4週	特殊商品販売		予約販売、未着品等		
第5週	現金預金		現金・預金、現金過不足の処理		
第6週	手形		割引、裏書、不渡		
第7週	有価証券		売買目的有価証券		
第8週	復習		これまでの復習		
第9週	固定資産		減価償却、買い換えと除却		
第10週	株式会社の記帳		社債と株式		
第11週	特殊仕訳帳		二重転記の除去		
第12週	伝票会計		5伝票制		
第13週	本支店会計(1)		本支店会計の構造		
第14週	本支店会計(2)		本支店会計財務諸表		
第15週	復習		前期のまとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	個別問題(1)		問題演習		
第17週	個別問題(2)		問題演習		
第18週	個別問題(3)		問題演習		
第19週	個別問題(4)		問題演習		
第20週	個別問題(5)		問題演習		
第21週	個別問題(6)		問題演習		
第22週	個別問題(7)		問題演習		
第23週	復習		これまでの復習		
第24週	総合問題(1)		問題演習		
第25週	総合問題(2)		問題演習		
第26週	総合問題(3)		問題演習		
第27週	総合問題(4)		問題演習		
第28週	総合問題(5)		問題演習		
第29週	総合問題(6)		問題演習		
第30週	総合演習		1年間のまとめ		
後期期末試験	実施する				
教科書	『日商簿記2級 とおるテキスト』TAC出版、『完全分類クブック、2級商業簿記』英光社;配布プリント				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
原価計算 Cost Accounting	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 美紀子
授業概要	本講義では、全経工業簿記1級レベルの工業簿記・原価計算の内容を学習する。さらに、原価計算基準等の会計法規についても学習する。				
到達目標	①製造業の勘定の連関を理解出来る。 ②製造原価報告書の作成が出来る。 ③製造業の損益計算書・貸借対照表の作成が出来る。 ④簿記検定能力試験1級工業簿記の取得を目指し、検定レベルの問題を解くことが出来る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	類問を解き、過去問に挑戦し、出来る限り多くの問題を繰り返し解くことにより学習効果が高まる。制限時間内に検定問題が解けるようになるには、積極的な自己学習が必要である。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	イントロダクション	授業の進め方			
第2週	工業簿記のアウトライン(1)	問題演習			
第3週	工業簿記のアウトライン(2)	問題演習			
第4週	工業簿記のアウトライン(3)	問題演習			
第5週	工業簿記のアウトライン(4)	問題演習			
第6週	工業簿記のアウトライン(5)	問題演習			
第7週	工業簿記のアウトライン(6)	問題演習			
第8週	復習	これまでの復習			
第9週	原価計算の基礎(1)	問題演習			
第10週	原価計算の基礎(2)	問題演習			
第11週	原価計算の基礎(3)	問題演習			
第12週	原価計算の基礎(4)	問題演習			
第13週	原価計算の基礎(5)	問題演習			
第14週	原価計算の基礎(6)	問題演習			
第15週	復習	前期のまとめ			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	総合原価計算(1)	総合原価計算の流れ			
第17週	総合原価計算(2)	単純総合原価計算			
第18週	総合原価計算(3)	組別総合原価計算			
第19週	総合原価計算(4)	等級別総合原価計算			
第20週	総合原価計算(5)	工程別総合原価計算			
第21週	工業簿記の財務諸表(1)	損益計算書, 貸借対照表			
第22週	工業簿記の財務諸表(2)	製造原価報告書			
第23週	復習	これまでの復習			
第24週	標準原価計算(1)	材料差異, 労務費差異			
第25週	標準原価計算(2)	製造間接費差異			
第26週	直接原価計算	変動費, 固定費			
第27週	本社工場会計	本社勘定, 工場勘定			
第28週	個別原価計算	部門別原価計算			
第29週	1級工業簿記試験問題演習	模擬問題			
第30週	総合演習	1年間のまとめ			
後期期末試験	実施する				
教科書	『日商簿記2級 とおるテキスト工業簿記』TAC出版, 『完全分類 全経簿記, 1級工業簿記』TAC出版, 『全経簿記 改訂ワークブック, 1級工業簿記』TAC出版; 配付資料				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 課題30%で総合的に評価する。				



授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教員
実務研修 Outside Practice	4	1	選択	夏季休業中 C	森川 治
授業概要	長期休業中の実務研修。 企業等の現場での就業体験を通じて、専門分野における高度な知識・技術に触れながら、実務能力を高める。				
到達目標	実践的な仕事感覚を向上させる。 働くことに対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 現場での就業体験により、確かな職業観を形成することができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応：(B-2). (D-2). (D-4). (F-1). (F-2). (F-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：3). 4). 5). 6).				
履修上の注意	進路の方向性を基にして、受け入れ先を選ぶこと。 社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習先希望調査</li> <li>・ 実習先との調整</li> <li>・ 実習先の決定</li> <li>・ 実習（夏季休業中、2週間程度）</li> <li>・ 実習報告書提出</li> <li>・ 実習報告会（口頭発表あるいはポスターセッション）</li> </ul>				
教科書					
参考図書					
評価方法	評価は、実習先からの実習記録票、実習報告書、および実習報告会における発表等の内容を総合的に評価して合否を判定する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
卒業研究 Graduation Research	5	6 (180)	必修	通年 週6時間 C	コミュニケーション情報学科 全教員

授業概要	5年間の学習の成果を基に、担当教員の指導により学生の興味と好ましい資質の伸展をはかり、探索的な学習を通じて問題解決能力を育成する。
到達目標	受動的な学習態度ではなく、問題を自ら探して見つけるような積極的かつ自発的な取り組みができる。
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (B-4), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(3), 4), 5), 6).
履修上の注意	各テーマについて指導教員より指示がある。

**授業計画**

学生は各研究室に配属され、下記のようなテーマにしたがって授業を進める。最後にテーマごとの報告書を作成する。また、卒業研究発表会において研究成果を発表する。平成 19 年度のテーマは以下の通りである。

- ・証券市場における株価のアノマリーについての一考察
- ・QRコードを利用した観光情報提供システムについての一考察 ～いわき市を事例に～
- ・福祉有償運送の可能性に関する一考察 ～いわき市を事例に～
- ・小名浜港 1・2 号埠頭地区再開発に関する一考察
- ・パターンを利用した木製知育パズル制作
- ・マルチモーダルコミュニケーションを利用したミュージックビデオ制作
- ・錯視現象を応用させたアパレル制作 ～ゴシック文化におけるスカートとコルセット～
- ・色彩学を応用した知育絵本の制作
- ・少子化時代における学習塾のフランチャイズ戦略
- ・企業の環境経営に関する一考察 ～CSRを中心として～
- ・家具業界の経営戦略に関する一考察 ～IKEAの事例～
- ・イギリスにおけるしぐさを仲介して得られる文化理解
- ・現代社会における男女の社会的役割に関する一考察
- ・非対称情報下における参入阻止価格について
- ・進化ハイパーゲーム理論によるレモン市場の分析
- ・広告のことばの語用論的分析 ～関連性理論からのアプローチ～
- ・シュタッケルベルグ均衡の後手有利性に関する一考察
- ・日米英の新聞による3国の関心事の比較  
～ダイアナ元妃追悼コンサート、広島被爆者追悼、9.11 追悼に関する記事から～
- ・高齢者に対する旅行サービスについての一考察
- ・玩具産業の動向と今後 ～タカラトミーについての一考察～
- ・和書とその英訳書における、文化的背景による表現の相違
- ・現代映画の対訳からみる日本・欧米間の人間性の相違
- ・玩具産業の市場戦略について ～バンダイナムコホールディングスを事例として～
- ・英語の再帰代名詞の習得について
- ・女性雑誌におけるマーケティング戦略の一考察 ～『赤文字系雑誌』の分析より～
- ・M&Aにおける会計処理方法についての一考察
- ・新会社法～その本当の意味と活用法～
- ・ライブドア粉飾事件から学ぶ ～監査制度の現状とあるべき姿～
- ・株式持ち合い構造の変化に関する一考察
- ・退職給付制度に関する一考察 ～中小企業の動向について～
- ・草野心平校歌コミュニティの構築
- ・夏休み自由研究データベースの構築
- ・商品陳列に関する一考察
- ・地方公共団体の財政に関する一考察
- ・日本の儀式に見る日本人の色感覚
- ・場交渉論から見る会話分析
- ・不完備情報ゲームによる日本の国防の分析
- ・共有知識の一考察

教科書	
参考図書	
評価方法	卒業研究報告を 80%、プレゼンテーションを 20%で総合的に評価する。

授業科目名	学年	単位数	必・選	授業形態	担当教員
実務研修 Outside Practice	4	1	選択	夏季休業中 C	森川 治
授業概要	長期休業中の実務研修。 企業等の現場での就業体験を通じて、専門分野における高度な知識・技術に触れながら、実務能力を高める。				
到達目標	実践的な仕事感覚を向上させる。 働くことに対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 現場での就業体験により、確かな職業観を形成することができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応：(B-2). (D-2). (D-4). (F-1). (F-2). (F-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：3). 4). 5). 6).				
履修上の注意	進路の方向性を基にして、受け入れ先を選ぶこと。 社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。				
<b>授業計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習先希望調査</li> <li>・ 実習先との調整</li> <li>・ 実習先の決定</li> <li>・ 実習（夏季休業中、2週間程度）</li> <li>・ 実習報告書提出</li> <li>・ 実習報告会（口頭発表あるいはポスターセッション）</li> </ul>					
教科書					
参考図書					
評価方法	評価は、実習先からの実習記録票、実習報告書、および実習報告会における発表等の内容を総合的に評価して合否を判定する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
卒業研究 Graduation Research	5	6 (180)	必修	通年 週6時間 C	コミュニケーション情報学科 全教員
授業概要	5年間の学習の成果を基に、担当教員の指導により学生の興味と好ましい資質の伸展をはかり、探索的な学習を通じて問題解決能力を育成する。				
到達目標	受動的な学習態度ではなく、問題を自ら探して見つけるような積極的かつ自発的な取り組みができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2), (B-4), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(3), 4), .5), 6).				
履修上の注意	各テーマについて指導教員より指示がある。				
<b>授業計画</b> 学生は各研究室に配属され、下記のようなテーマにしたがって授業を進める。最後にテーマごとの報告書を作成する。また、卒業研究発表会において研究成果を発表する。平成19年度のテーマは以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・証券市場における株価のアノマリーについての一考察</li> <li>・QRコードを利用した観光情報提供システムについての一考察 ～いわき市を事例に～</li> <li>・福祉有償運送の可能性に関する一考察 ～いわき市を事例に～</li> <li>・小名浜港1・2号埠頭地区再開発に関する一考察</li> <li>・パターンを利用した木製知育パズル制作</li> <li>・マルチモーダルコミュニケーションを利用したミュージックビデオ制作</li> <li>・錯視現象を応用させたアパレル制作 ～ゴシック文化におけるスカートとコルセット～</li> <li>・色彩学を応用した知育絵本の制作</li> <li>・少子化時代における学習塾のフランチャイズ戦略</li> <li>・企業の環境経営に関する一考察 ～CSRを中心として～</li> <li>・家具業界の経営戦略に関する一考察 ～IKEAの事例～</li> <li>・イギリスにおけるしぐさを仲介して得られる文化理解</li> <li>・現代社会における男女の社会的役割に関する一考察</li> <li>・非対称情報下における参入阻止価格について</li> <li>・進化ハイパーゲーム理論によるレモン市場の分析</li> <li>・広告のこぼの語用論的分析 ～関連性理論からのアプローチ～</li> <li>・シュタッケルベルグ均衡の後手有利性に関する一考察</li> <li>・日米英の新聞による3国の関心事の比較 ～ダイアナ元妃追悼コンサート、広島被爆者追悼、9.11追悼に関する記事から～</li> <li>・高齢者に対する旅行サービスについての一考察</li> <li>・玩具産業の動向と今後 ～タカラトミーについての一考察～</li> <li>・和書とその英訳書における、文化的背景による表現の相違</li> <li>・現代映画の対訳からみる日本・欧米間の人間性の相違</li> <li>・玩具産業の市場戦略について ～バンダイナムコホールディングスを事例として～</li> <li>・英語の再帰代名詞の習得について</li> <li>・女性雑誌におけるマーケティング戦略の一考察 ～『赤文字系雑誌』の分析より～</li> <li>・M&amp;Aにおける会計処理方法についての一考察</li> <li>・新会社法～その本当の意味と活用法～</li> <li>・ライブドア粉飾事件から学ぶ ～監査制度の現状とあるべき姿～</li> <li>・株式持ち合い構造の変化に関する一考察</li> <li>・退職給付制度に関する一考察 ～中小企業の動向について～</li> <li>・草野心平校歌コミュニティの構築</li> <li>・夏休み自由研究データベースの構築</li> <li>・商品陳列に関する一考察</li> <li>・地方公共団体の財政に関する一考察</li> <li>・日本の儀式に見る日本人の色感覚</li> <li>・場交渉論から見る会話分析</li> <li>・不完備情報ゲームによる日本の国防の分析</li> <li>・共有知識の一考察</li> </ul>					
教科書					
参考図書					
評価方法	卒業研究報告を80%、プレゼンテーションを20%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
パブリック・スピーキングⅡ Public Speaking Ⅱ	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	大森 房子
授業概要	各章の講読教材を通してさまざまな語彙・表現に習熟し、与えられたトピックについて各自の意見を文章化する・発表する基礎的な訓練を行う。また、視点の異なる資料文を読むことで関連語彙を補充する。				
到達目標	①英語の長文を読み、内容を正確に把握する読解力を養成する。 ②英語の熟語や慣用的な表現を習得する。 ③自己の考えを的確に伝えるコミュニケーション能力を身につける。 ④語彙数を増やす。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	テキストのリーディングパッケージ(長文や資料)を読み、辞書を引いて意味を調べ、予習しておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Unit 10 Women's Rights (1)	トピック文の内容理解、語彙			
第2週	Unit 10 Women's Rights (2)	トピック文の内容理解、語彙			
第3週	Unit 10 Women's Rights (3)	重要表現と関連語彙の補充			
第4週	Unit 11 Buy This, Buy That! (1)	トピック文の内容理解、語彙			
第5週	Unit 11 Buy This, Buy That! (2)	トピック文の内容理解、慣用表現			
第6週	Unit 11 Buy This, Buy That! (3)	重要表現と関連語彙の補充			
第7週	プレゼンテーションプラン	トピックに関する視点・論点			
第8週	Unit 12 On the Job (1)	トピック文の内容理解、語彙			
第9週	Unit 12 On the Job (2)	トピック文の内容理解、語彙			
第10週	Unit 12 On the Job (3)	重要表現と同意語・関連語彙			
第11週	Unit 13 No Strings Attached (1)	トピック文の内容理解、語彙			
第12週	Unit 13 No Strings Attached (2)	トピック文の内容理解、語彙			
第13週	Unit 13 No Strings Attached (3)	重要表現を使用した短い文章			
第14週	プレゼンテーションプラン	トピックに関する視点・論点			
第15週	期末試験返却と問題解説				
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Unit 15 Caring About Others (1)	トピック文の内容理解、語彙			
第17週	Unit 15 Caring About Others (2)	トピック文の内容理解、熟語表現			
第18週	Unit 15 Caring About Others (3)	重要表現と関連語彙の補充			
第19週	Unit 16 Read All About It! (1)	トピック文の内容理解、語彙			
第20週	Unit 16 Read All About It! (2)	トピック文の内容理解、熟語表現			
第21週	Unit 16 Read All About It! (3)	重要表現と関連語彙の補充			
第22週	プレゼンテーションプラン	視点の異なる資料収集			
第23週	Unit 17 Is TV Good For You? (1)	トピック文の内容理解、語彙			
第24週	Unit 17 Is TV Good For You? (2)	トピック文の内容理解、語彙			
第25週	Unit 17 Is TV Good For You? (3)	重要表現と関連語彙の補充			
第26週	Unit 18 Taking Access For Granted	トピック文の内容理解、語彙			
第27週	Unit 18 Taking Access For Granted	トピック文の内容理解、語彙			
第28週	Unit 18 Taking Access For Granted	重要表現と関連語彙の補充			
第29週	表現・語彙・文法事項の総括	復習とまとめ			
第30週	期末試験返却と問題解説				
後期期末試験	実施する				
教科書	昨年使用した教科書(「Presenting Different Opinions」Richard McMahon 南雲堂)を継続して使用する。				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題・小テスト30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス・ライティングⅡ Business Writing Ⅱ	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	渡辺 エリカ
授業概要	様々なビジネスの場に使われる英語表現を、ライティングを通じて身に着ける。英語でビジネス文書を作成する場合に役立つよう演習も行う。				
到達目標	①英語でのビジネス文書が作成できる。 ②プレゼンテーションのサインポストに習熟し、論理的表現ができる。 ③統計の数値やグラフの変化を英語で表現できる。 ④ビジネス・プレゼンテーションに役立つライティング表現が身に付く。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	様々なビジネス現場での英語表現が身につくよう実践を行う。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	Introductions		Introducing yourself and work experience		
第2週	Company Hierarchies		Job responsibilities		
第3週	continued		Describing routines		
第4週	continued		Application letter; job resume		
第5週	Quality		Describing quality and cost		
第6週	continued		Ordering a process; sequences		
第7週	continued		Letter of complaint		
第8週	Telephoning		Starting and receiving a phone call		
第9週	continued		Role play		
第10週	Import/export		Importing/exporting		
第11週	continued		markets		
第12週	continued		Exporting in a niche market		
第13週	Travel		Commuting to work; business travelers		
第14週	continued		Business travel vs tourism		
第15週	continued		itinerary		
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	Career Prospects		Career plans; networking		
第17週	continued		Giving advice and warning		
第18週	continued		Business contact		
第19週	Time		Value of time; time and logistics		
第20週	continued		Investing to save time		
第21週	continued		Arranging a meeting		
第22週	The customer		Customers; product development mistakes		
第23週	continued		Mass customization		
第24週	continued		Finding solutions to customer problems		
第25週	Business online		new technology and working from home		
第26週	continued		Successful online business		
第27週	continued		homepages		
第28週	Not for profit		Charities; charities and business		
第29週	continued		Ways of raising money		
第30週	Review and conclusion				
後期期末試験	実施しない				
教科書	Jon Naunton & Mark Tulip, Profile 1, Oxford University Press				
参考図書					
評価方法	Report 80%、Mini test 10%、presentations 10%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報メディア演習 Information Media Literacy Practice	5	2 * (30)	必修	後期 週2時間 C	森川 治
授業概要	「ニュース」というメディアの内容に注目し、現代社会におけるメディアの特性、役割、効果を考察する。				
到達目標	①メディア・リテラシーを理解し、ニュースを批判的に読める。 ②各新聞社の社説を読み比べることができる。 ③各新聞社の記事の内容分析ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (D-4). (F-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	メディアを比較しつつ、「ニュース」を多角的に読むよう努める。自学自習の確認方法:課題プリントを学生に配布し提出させる。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	ガイダンス 総合演習(1) 総合演習(2) ニュースの内容分析(1) ニュースの内容分析(2) ニュースの内容分析(3) ニュースの内容分析(4) ニュースの内容分析(5) ニュースの内容分析(6) ニュースの内容分析(7) 事件報道(1) 事件報道(2) 総合演習(3) 総合演習(4) 学習したことの総括 実施する			情報メディアの復習 最近のニュース、社説を読む 最近のニュース、社説を読む 内容分析研究とは何か 内容分析の研究姿勢 内容分析のレポートを読む 内容分析のレポートを読む 発表討議 発表討議 発表討議 報道と人権 松本サリン事件を考える 最近のニュース、社説を読む 最近のニュース、社説を読む 後期期末試験解答用紙の返却、解説	
教科書	現代ニュース論、大石裕著、有斐閣				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、レポート発表30%で評価します。				

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
企業論 Current Issues in Companies	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 順一
授業概要	多様な企業理論のうち、経営戦略論と中小企業論について学ぶ。				
到達目標	①古典的な経営戦略論に関する基礎的な知識を習得する。 ②最新の経営戦略論に関する基礎的な知識を習得する。 ③戦後日本の中小企業の発展に関する基礎的な知識を習得する。 ④戦後日本の中小企業政策に関する基礎的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:4).				
履修上の注意	新聞等を毎日読んで、最新の経営事情についての情報を収集すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	イントロダクション 経営戦略とは 事業領域の定義 戦略の策定(1) 戦略の策定(2) 戦略の策定(3) 前期中間試験 競争の戦略 新規事業創造の戦略 ネットワーク戦略 グローバル戦略 地域企業の戦略 経営戦略と社会 総合演習 前期学習したことの総括 実施する 中小企業とは 企業の創業と進化 戦後日本の中小企業の発展(1) 戦後日本の中小企業の発展(2) 戦後日本の中小企業の発展(3) 戦後日本の中小企業の発展(4) 後期末試験 もの作りと中小企業(1) もの作りと中小企業(2) 戦後日本の中小企業政策(1) 戦後日本の中小企業政策(2) 戦後日本の中小企業政策(3) 戦後日本の中小企業政策(4) 総合演習 後期学習したことの総括 実施する		授業の進め方およびレポートの書き方 何をいかに学ぶか 「ドメイン」という考え方 企業/事業戦略の策定 外部環境の分析 内部環境の分析  基本戦略 戦略代替案 新しい組織への動き 新しい組織への動き 地域社会の中で 戦略的社会性とは何か これまでの復習 前期末試験解答用紙の返却と解説  中小企業の定義と特徴 中小企業のダイナミズム 戦後復興 高度成長 知識集約化・減速経済化 90年代大不況  下請取引と下請系列関係 産業集積、日本工業の構造変化 経済民主化型政策 産業構造政策型中小企業政策 産業構造政策型中小企業政策の新展開 競争政策型中小企業政策 これまでの復習 後期末試験解答用紙の返却と解説		
教科書					
参考図書	経営戦略(新版), 大滝精一(他), 有斐閣アルマ 21世紀型中小企業論(新版), 渡辺幸男(他), 有斐閣				
評価方法	定期試験70%, 課題30%で総合的に評価する。				



授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
国際経済 International Economics	5	2 * (30)	必修	前期 週 2 時間 A	芥川 一則
授業概要	国際的な経済取引が存在する経済理論の基本を学習する。具体的には、マンデル＝フレミング・モデルについて取り上げる。				
到達目標	①経済学の基本理論を理解できる。 ②現実の経済状況が把握できる。 ③経済問題が理解できる。 ④経済問題に対して自分の意見を述べられる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-2). (C-1). (D-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:3).				
履修上の注意	自学自習の確認方法:課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第 1週 第 2週 第 3週 第 4週 第 5週 第 6週 第 7週 第 8週 第 9週 第 10週 第 11週 第 12週 第 13週 第 14週 第 15週 前期期末試験	資本と財貨の国際循環 小国開放経済の貯蓄と投資 為替レート IS-LMモデル(1) IS-LMモデル(2) IS-LMモデル(3) 前期中間試験 前期総合復習(1) 閉鎖経済と開放経済 マンデル＝フレミング・モデル(1) マンデル＝フレミング・モデル(2) マンデル＝フレミング・モデル(3) マンデル＝フレミング・モデル(4) マンデル＝フレミング・モデル(5) 前期総合復習(2) 実施する	対外純投資と貿易収支 データと処理の流れをつかまえる技法 名目為替レートと実質為替レート 財市場とIS曲線 貨幣市場とLM曲線 金融政策と財政政策の相互作用  専門用語の確認 財・サービスと資金の国際的流れ 資本の完全移動を伴う小国開放経済 変動為替レート制下の小国開放経済 固定為替レート制下の小国開放経済 利子率格差(カントリーリスク) 変動為替レート制と固定為替レート制の比較 専門用語の確認			
教科書	マンキュー・マクロ経済学 I 入門篇、N・グレゴリー・マンキュー著;プリント資料他				
参考図書	入門マクロ経済学、嶋村紘輝他著、中央経済社				
評価方法	定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価する。				

(注)\*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
マーケティング Introduction to Marketing	5	2 * (30)	必修	前期 週2時間 A	松本 行真
授業概要	マーケティングの基本的概念とその事例の収集と検討方法について学ぶ。				
到達目標	①いくつかあるマーケティングのフレームを理解できる ②フレームの使い方を理解できる ③新聞雑誌等からの事例収集と検討ができる				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (C-4), (C-6), (D-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:3), 4).				
履修上の注意	日経本誌はもとより、日経MJ、他ビジネス雑誌、専門誌は常にチェックしてもらいたい。また、事例収集は地道な作業なので、常日頃まじめに取り組むこと。 自学自習の確認方法:授業の予習或いは復習などの課題プリントを配布し、定期的に提出を求める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	マーケティング戦略への招待、事業機会の選択	マーケティング4P、ポートフォリオ戦略			
第2週	事業領域の選択	事業の定義			
第3週	標的市場の選択	セグメンテーション、ターゲティング			
第4週	市場データ分析	データ収集の方法			
第5週	消費者行動分析	SORモデル研究、情報処理研究など			
第6週	競争分析	5つの競争要因、戦略グループなど			
第7週	流通分析	チャネル戦略			
第8週	製品対応	マーケティングの中核としての製品戦略			
第9週	価格対応	価格設定のマーケティング戦略			
第10週	コミュニケーション対応	消費者への効果的な情報伝達			
第11週	流通チャネル対応	流通環境の変化に対応したチャネル戦略			
第12週	競争対応	競争優位のための戦略対応			
第13週	サービス・マーケティング	サービス業のマーケティング戦略			
第14週	ソーシャル・マーケティング	マーケティングと社会の関わり			
第15週	関係性マーケティング	インタラクション重視のマーケティング			
前期期末試験	実施する				
教科書	『マーケティング戦略 第3版』、和田・恩蔵・三浦、有斐閣アルマ				
参考図書	①『製品・ブランド戦略』、青木・恩蔵、有斐閣アルマ②『価格・プロモーション戦略』、上田・守口、有斐閣アルマ ③『流通・営業戦略』、小林・南、有斐閣アルマ④『消費者・コミュニケーション戦略』、田中・清水、有斐閣アルマ				
評価方法	定期試験の成績を70%、課題を30%として総合的に評価する。				

(注) \*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
視聴覚情報概論 Human Information Processing	5	2 * (30)	必修	後期 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	情報化社会が進む中で、最も情報量の多い視覚情報を中心に、聴覚情報を効果的に用いたメディアが今後重要な媒体となる。人の視聴覚の生理学的、心理学的しくみと脳が知覚する基礎知識を学び、視覚の不思議な現象を取り入れた様々な造形、平面錯視、立体錯視を演習も取り入れて学習する。				
到達目標	①人がモノを視覚的に認識するしくみ、音を認識するしくみが理解できる。 ②パターン、色彩、錯視の原理等を学び、錯視を実際に制作することで理解が深まる。 ③音のイメージ制作と色彩構成演習を行い、視聴覚媒体制作が実習できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5). 6).				
履修上の注意	人の眼の構造、耳の構造、可視光域と可聴音域、視聴覚情報が脳に届き知覚するメカニズム、色彩知覚、錯視等の基礎を理解、応用、制作できるよう留意する。自学自習の確認方法:課題に対する作品、レポートを定期的に提出させる。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	環境情報 視覚特性 聴覚特性 かたちと大きさの知覚 幾何学的錯視 視覚と心理 視覚と心理 色彩と心理演習 色彩と心理演習 色彩と心理演習 色彩のイメージと配色演習 音のイメージと配色演習 音楽・映像とメディア 音楽・映像とメディア 音楽・映像とメディア 実施しない	環境情報の範囲と刺激、感覚・知覚・認知と神経系 眼の構造と網膜の情報処理、視覚神経系の構造 耳の構造と聴覚神経の構造 図と地:実例図形、主観的輪郭:カニツツア図形 ジャストロー図形、遠近法錯視図形制作 幾何学的錯視制作 不可能形態の錯視制作 ベンハムのこま:無彩色から認識できる色彩効果 縁辺対比とハーマンドット、ネオンカラー現象 色彩イメージと配色、色彩の誘目性 色彩イメージと色彩構成 音イメージと色彩構成 音楽イメージとメディア制作 音楽イメージとメディア制作 作品鑑賞とレポート制作			
教科書	視知覚,松田隆夫,培風館				
参考図書	錯視の造形-メトリックス-,白石和也,ダヴィッド社				
評価方法	演習課題作品提出70%,レポート提出30%で評価する				

(注)\*印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
言語文化 Language and Culture	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	松江 俊一
授業概要	文化とは文字どおり文字が化けた姿である。無文字→文字→文化→文明の流れに立脚しつつ言語を座標軸に人間現象について総合的に学ぶ。				
到達目標	①日本の歴史の過去と現在を把握する。 ②日本語の成り立ちを歴史的に理解する。 ③日本人のエスニシティを認識する。 ④日本人の和、言霊、怨霊信仰を認識する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3), (D-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	文化は人間の精神活動の結果であり、その中心に言語がある。これまでに学んできたあらゆる知識を言語を中心に再構築してみよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ことばと文化(1)	ことばの構造、文化の構造			
第2週	ことばと文化(2)	文字と言語の関係、物とことば、かくれた基準			
第3週	日本人の成立(1)	考古学的に見た日本人(1)			
第4週	日本人の成立(2)	考古学的に見た日本人(2)			
第5週	日本人の成立(3)	卑弥呼について、倭の成立			
第6週	日本の神話(1)	イザナギとイザナミ、日本人の穢れ思想について			
第7週	前期中間試験				
第8週	日本の神話(2)	アマテラス・スサノオ・オオクニヌシ、日本人の怨霊思想について			
第9週	古代・中世の言霊思想と文化(1)	聖徳太子の「和」について、東大寺の大仏の建立について			
第10週	古代・中世の言霊思想と文化(2)	平安京の遷都について、武士の出現と貴族との関係			
第11週	古代・中世の言霊思想と文化(3)	漢字とひらがな、和文の創造			
第12週	古代・中世の言霊思想と文化(4)	万葉集、古今和歌集、土佐日記、源氏物語に共通すること			
第13週	古代・中世の言霊思想と文化(5)	神道と仏教(1)神仏習合			
第14週	古代・中世の言霊思想と文化(6)	神道と仏教(2)日本人の宗教観			
第15週	前期学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却と解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	江戸期の言語文化(1)	蘭学について、オランダ商館の役割			
第17週	江戸期の言語文化(2)	本草学について、博物学の発展の形態(西洋の博物学との対比)			
第18週	江戸期の言語文化(3)	ケンペル・ツェンベリ・シーボルト			
第19週	幕末・明治の言語文化(1)	寺子屋、蘭学・国学、化政文化との関連			
第20週	幕末・明治の言語文化(2)	五箇条の御誓文の意味(穢れ思想、言霊思想の再確認)			
第21週	幕末・明治の言語文化(3)	江戸末期から明治期における外国語の日本語翻訳について			
第22週	後期中間試験				
第23週	現代日本の言語文化(1)	福沢諭吉、西周、正岡子規、夏目漱石について			
第24週	現代日本の言語文化(2)	韓国の言語事情と日本語との比較			
第25週	現代日本の言語文化(3)	ピジンとクレオール			
第26週	現代日本の言語文化(4)	日本人の名前の特徴(1)			
第27週	現代日本の言語文化(5)	日本人の名前の特徴(2)			
第28週	現代日本の言語文化(6)	言葉の言い換え、差別用語			
第29週	現代日本の言語文化(7)	現代人の穢れ思想、言霊思想			
第30週	後期学習したことの総括	期末期末試験解答用紙の返却、解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	配布資料				
参考図書	『閉ざされた言語日本語の世界』鈴木孝夫、新潮社、『日本語はいかにつくられたか』小池清治、筑摩書房、その他講義中に指示する。				
評価方法	定期試験 70%、豆テスト及び課題 30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
国際金融論 Topics International Finance	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 美紀子
授業概要	国際金融の理解, 現状, 政策, 歴史を体系的に学び, ドル, ユーロ, 円の動向について現代的視点から理解すること。				
到達目標	①国際金融の理論について理解で出来る。 ②国際金融の歴史を理解で出来る。 ③国際金融の現状および政策を把握出来る。 ④変貌著しい国際金融の姿を総合的・体系的に捉えることが出来る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1). (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	新聞に毎日目を通し, 世界で起こっている出来事について関心を持つこと。世界的なニュースと自分の生活との関連を考えること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 国際通貨と決済システム 国際決済と外国為替 国際収支と国際収支表 国際収支と国民経済 外国為替収支 為替取引と為替相場 復習 国際通貨 国際金融市場 伝統的市場 ユーロ市場とデリバティブ市場 企業の国際化と国際金融 金融機関の国際化と国際業務 通貨当局の為替政策 実施する 金融リスクの国際的管理 変動為替性 国際政策協調 発展途上国と開発金融 市場経済移行と通貨・金融問題 中国の経済発展の可能性 変貌する国際金融機関 復習 国際金本位制とポンド体制 IMF体制 EUの通貨統合 ユーロの対外的側面 円の国際化と日本版ビッグバン アジアの金融・通貨危機とその影響 国際通貨体制の現状と将来 実施する		用語の説明と授業の概要 貨幣, 通貨と銀行間決済システム 内国為替と外国為替 国際収支の概念と国際収支表 国民所得勘定, 解放経済における所得 外国為替市場の構成と銀行間市場 直物相場と先物相場 これまでの復習 国際通貨の機能と選択 国際金融市場の意義と構成 伝統的市場の体系と展開過程 ユーロ市場とデリバティブ市場の機能 企業の国際化と企業金融の国際化 銀行・証券業務の国際化 為替政策と金融・財政政策  金融リスクの分類とリスク管理 変動為替性の理論と現実 経済政策の国際協調 南北問題と国際金融 社会主義国の市場経済移行 製造業立国としての中国の位置 IMFの改革と貧困の削減 これまでの復習 金本位制, ポンド体制 IMF体制の成立と発展 欧州通貨統合の歴史的背景 国際通貨としてのユーロ 日本版ビッグバン アジアの為替制度と日本の役割 21世紀の国際通貨制度		
教科書	『現代国際金融論[新版]』上川孝夫他, 有斐閣ブックス				
参考図書					
評価方法	定期試験70%, 課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
広告・広報メディア概論 Advertisement, Public Relation and Media	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	内山 昭代
授業概要	<p>広告は、最古のバビルスに記載されたものから現代のネット上のインタラクティブな広告まで、人類の歴史と共に歩んだ情報文化の側面を持つ。その社会的意義と重要性を認識し、広告特性、広告目的、広告媒体とその特徴を知って、広告計画から広告制作に至るまでの演習を行う。</p>				
到達目標	<p>①広告の役割と基礎知識が理解できる。 ②生活者(消費者)に伝達する情報技術を身につけることができる。 ③広告主の立場からのメディア選択の重要性が理解できる。 ④具体的な広告計画からメディア特性に合った広告制作が実習できる。</p>				
教育目標との対応	<p>福島高専の教育目標との対応:(E-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5). 6).</p>				
履修上の注意	<p>広告・広報活動が社会へ及ぼす影響、社会的責任、様々なメディアの特性と最適な選択の方法に留意する。企業が行う広告計画から広告原稿制作、プレゼンテーションができるよう留意する。</p>				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	広告の役割と種類		広告の役割と社会的意義。求職新聞広告制作		
第2週	広告媒体(四大媒体)		新聞広告の特徴-広告スペース・広告料金		
第3週	広告媒体(四大媒体)		雑誌広告の特徴-広告スペース・広告料金		
第4週	広告媒体(四大媒体)		ラジオ媒体の特徴と電波・TV広告の特徴		
第5週	その他広告媒体		車内広告・屋外広告・POP/ニューメディア		
第6週	広告とマーケティング		広告とマーケティングの考え方		
第7週	前期中間試験		実施する		
第8週	広告分析・批評		新聞広告を紙面から選択、分析、レポート制作		
第9週	広告分析・批評		雑誌広告を誌面から選択、分析、レポート制作		
第10週	広告の重要概念と広告分析		TVCM-日本のCMの鑑賞、分析、レポート制作		
第11週	広告の重要概念と広告分析		TVCM-海外習作CM鑑賞、分析、レポート制作		
第12週	広告の重要概念と広告計画		広告の重要概念のまとめと広告計画実務		
第13週	広告計画		広告計画と媒体を考慮した広告制作実務		
第14週	広告計画と広告制作実務		新聞・雑誌のサムネールとTVCMの絵コンテ制作		
第15週	前期広告概論のまとめ		重要概念のまとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	広告制作の実務-1		商品を特定した商品広告計画と広告制作		
第17週	広告制作の実務-1		商品広告制作と企業研究、広告コンセプト		
第18週	広告制作の実務-1		広告コンセプトと訴求対象、媒体選択		
第19週	広告制作の実務-1		媒体別広告スペースと広告表現、効果的なデザイン		
第20週	広告制作の実務-1		TVCM制作-絵コンテとデザイン、課題提出		
第21週	広告制作の実務-1		作品鑑賞と解説、レポート制作		
第22週	広告制作の実務-2		第3次産業の企業理念と商品・サービス		
第23週	広告制作の実務-2		企業選出と企業リサーチ		
第24週	広告制作の実務-2		広告計画と広告制作		
第25週	広告制作の実務-2		媒体別広告制作		
第26週	広告制作の実務-2		広告制作とスライド制作		
第27週	広告制作の実務-2		スライド制作		
第28週	広告制作の実務-2		企業紹介と広告計画プレゼンテーション		
第29週	広告制作の実務-2		企業紹介と広告計画プレゼンテーション		
第30週	広告制作の実務-2		企業紹介と広告計画プレゼンテーション		
後期期末試験	実施しない				
教科書	-ビジュアル-広告の基本、野口智雄、日本経済新聞社 よくわかる広告・宣伝、相原博之他1名;日本能率協会マネジメントセンター				
参考図書	広告入門、梶山皓、日本経済新聞社				
評価方法	前期は定期試験成績70%、課題・レポート提出30% 後期は課題作品提出70%、レポート提出20%、プレゼンテーション10%、で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
貿易実務 Trading Practice	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一
授業概要	国民生活の維持と国内産業のために不可欠な国際貿易の仕組みを理解し、実務文書の把握の仕方・書き方を学ぶ。				
到達目標	①貿易実務検定C級レベルの実務知識を習得する。 ②貿易実務検定C級レベルの貿易英語を習得する。 ③輸出入通関の基礎知識を習得する。 ④支障なく輸入ビジネスができるための実務知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	毎回の授業をしっかりと理解するために復習を必ず行うこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	国際貿易体制と日本(1)	貿易と環境、日本の貿易の現状			
第2週	国際貿易体制と日本(2)	貿易の流れ、貿易取引の種類、品質条件の決定			
第3週	貿易書類と手続(1)	書類の流れ、モノの流れ、カネの流れ			
第4週	貿易書類と手続(2)	信用状			
第5週	貿易書類と手続(3)	船荷証券			
第6週	貿易書類と手続(4)	為替予約			
第7週	貿易書類と手続(5)	送り状、梱包明細書			
第8週	前期中間試験				
第9週	貿易法務(1)	貿易契約の流れ(勧誘、引合い、オファー、承諾)			
第10週	貿易法務(2)	インコタームズ			
第11週	貿易法務(3)	貿易管理制度			
第12週	外国為替と代金決済(1)	為替の種類、外国為替相場と市場			
第13週	外国為替と代金決済(2)	為替の先物予約			
第14週	外国為替と代金決済(3)	D/A手形決済、D/P手形決済			
第15週	前期学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却と解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	貿易保険とクレーム(1)	貨物海上保険			
第17週	貿易保険とクレーム(2)	貿易保険、PL保険			
第18週	貿易保険とクレーム(3)	海外商品の発掘方法、市場調査、適切な価格設定、価格交渉法			
第19週	通関業務(1)	輸出入通関の流れ、保税地域と関税の基礎			
第20週	通関業務(2)	輸入申告書、輸出申告書			
第21週	貿易運送(1)	海上貨物運送、航空貨物運送			
第22週	貿易運送(2)	国際複合一貫輸送			
第23週	後期中間試験				
第24週	輸入ビジネス、貿易英語1	マーケティング(1)、ビジネスレターの基本様式(2)			
第25週	輸入ビジネス、貿易英語2	マーケティング(2)、ビジネスレターの基本様式(2)			
第26週	輸入ビジネス、貿易英語3	通信販売、インターネット活用方法(1)、Proposal & Inquiry			
第27週	輸入ビジネス、貿易英語4	通信販売、インターネット活用方法(2)、Offer & Counter offer			
第28週	輸入ビジネス、貿易英語5	起業の実例(1)、Acceptance			
第29週	輸入ビジネス、貿易英語6	起業の実例(2)、INVOICEから信用状、為替手形の作成			
第30週	後期学習したことの総括	後期期末試験解答用紙の返却、解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	『めざせ!貿易実務検定』日本貿易実務検定協会(編)、日本能率協会マネジメントセンター、『ぜったい儲かる!輸入ビジネス』中村貞彦著、すばる舎				
参考図書	『新輸出入取引ハンドブック』来往哲二著、同文館、『輸出入外国為替実務事典』宮下忠雄著、日本実業出版社				
評価方法	定期試験 70%、課題等 30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報システム論 Information Systems	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	島村 浩
授業概要	情報システムの中核をなすオペレーティングシステムとプログラミング言語、ネットワークについて学習する。				
到達目標	①UNIXの概要を理解し、重要事項について説明できる。 ②簡単なコマンドを理解し、実際に操作できる。 ③プログラムの基本原理を理解し、簡単なプログラムが作成できる。 ④ネットワークの概要を理解し、簡単な設定ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3), (B-4), (D-2), (D-3), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5), 6).				
履修上の注意	実際にいろいろなことを試してみること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	オペレーティングシステム	ソフトウェアの種類、オペレーティングシステムの種類、機能			
第2週	オペレーティングシステム	プログラム内蔵方式、多重プログラミング方式、仮想記憶方式			
第3週	UNIXの概要	UNIXの経緯、ログイン、ログアウト			
第4週	UNIXの基礎	プロセス、ファイルシステム			
第5週	UNIXのコマンド(1)	ファイル操作コマンド			
第6週	UNIXのコマンド(2)	パイプ、リダイレクション			
第7週	前期中間試験				
第8週	シェルスクリプト	概要、実行方法			
第9週	エディタ(1)	viの使用方法			
第10週	エディタ(2)	viのコマンド			
第11週	プログラミングの基礎	アルゴリズム、データ構造			
第12週	アルゴリズムの基礎(1)	変数、順次構造			
第13週	アルゴリズムの基礎(2)	順次構造			
第14週	アルゴリズムの基礎(3)	選択構造			
第15週	アルゴリズムの基礎(4)	選択構造、期末試験の解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	アルゴリズムの基礎(5)	反復構造			
第17週	アルゴリズムの基礎(6)	反復構造			
第18週	アルゴリズムの基礎(7)	反復構造			
第19週	データ構造の基礎(1)	配列			
第20週	データ構造の基礎(2)	配列			
第21週	ファイル処理	ファイル入出力			
第22週	後期中間試験				
第23週	ネットワーク	ネットワークの概要			
第24週	プロトコル	OSI参照モデル			
第25週	インターネット概要	発展経緯			
第26週	TCP/IP	IPアドレス、ルーティング			
第27週	DNS	DNSの仕組み			
第28週	各種サービス	mail, web, ftp, DBMS			
第29週	総合演習	学習内容の確認			
第30週	最新動向とまとめ	最新の技術動向、期末試験の解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	入門UNIX 改訂新版、羽山博、アスキー				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、課題30%で評価する。				



授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネスと法律 Business and Law	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	渡部 美紀子
授業概要	本講義では、中級簿記の復習からはじめ、全経1級工業簿記の内容までを学習する。さらに、会社法や証券取引法等の会計法規についても学習する。				
到達目標	①製造業の勘定連関が理解出来る。 ②製造原価報告書の作成が出来る。 ③製造業の損益計算書・貸借対照表の作成が出来る。 ④簿記能力検定1級工業簿記の取得を目指し、検定レベルの問題を解くことが出来る。 ⑤基本的な会計法規を理解出来る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	類問を解き、過去問に挑戦し、出来る限り多くの問題を繰り返し解くことにより学習効果が高まる。制限時間内に検定問題が解けるようになるには、積極的な自己学習が必要である。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週	イントロダクション			授業の進め方	
第2週	中級簿記の復習(1)			勘定科目と連関	
第3週	中級簿記の復習(2)			財務諸表	
第4週	工業簿記のアウトライン(1)			製造原価の分類	
第5週	工業簿記のアウトライン(2)			製品の完成・販売までの処理	
第6週	総合原価計算の基礎(1)			原価計算のアウトライン	
第7週	総合原価計算の基礎(2)			単純総合原価計算	
第8週	復習			これまでの復習	
第9週	総合原価計算の基礎(3)			組別総合原価計算	
第10週	総合原価計算の基礎(4)			等級別総合原価計算	
第11週	総合原価計算の応用(1)			工程別総合原価計算	
第12週	総合原価計算の応用(2)			仕損・減損, 副産物	
第13週	工業簿記の財務諸表			製造原価報告書, 損益計算書, 貸借対照表	
第14週	会計諸法規			会社法, 証券取引法	
第15週	復習			前期のまとめ	
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	標準原価計算(1)			材料差異, 労務費差異	
第17週	標準原価計算(2)			製造間接費差異	
第18週	直接原価計算			直接原価計算	
第19週	本社工場会計			本社工場会計	
第20週	個別原価計算			個別原価計算	
第21週	第4問対策(1)			総合問題	
第22週	第4問対策(2)			総合問題	
第23週	復習			これまでの復習	
第24週	第3問対策(1)			計算問題	
第25週	第3問対策(2)			計算問題	
第26週	第2問対策(1)			仕訳問題	
第27週	第2問対策(2)			仕訳問題	
第28週	第1問対策			原価計算基準	
第29週	1級工業簿記試験問題演習			模擬問題	
第30週	総合演習			1年間のまとめ	
後期期末試験	実施する				
教科書	『日商簿記2級 とおるテキスト工業簿記』TAC出版, 『完全分類 全経簿記, 1級工業簿記』TAC出版, 『全経簿記 改訂ワークブック, 1級工業簿記』TAC出版; 配付資料				
参考図書	『会計学入門』千代田邦夫著, 中央経済社				
評価方法	定期試験70%, 課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
社会調査 Research	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松本 行真
授業概要	社会調査の企画、サンプリングから結果の分析に至る全プロセスについて学び、仮説の検証方法についても学習する。				
到達目標	①現代社会の諸現象について理解できる。 ②適切な情報源から情報の収集が出来る。 ③情報の内容を識別・蓄積・整理できる。 ④問題点と解決法を示せる能力を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-1). (D-3). (D-4). (D-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:4). 6).				
履修上の注意	統計に関する数学的な基礎的な知識は各自復習しておくこと。チームで調査を進めていくので、皆でしっかり協力すること。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週	イントロダクション			授業の進め方	
第2週	社会調査の実際(1) 社会調査とは			社会調査とは何か(1)	
第3週	社会調査の実際(2) 報告書を読む			社会調査とは何か(2)	
第4週	調査テーマの探索			調査テーマの決め方(1)	
第5週	調査テーマの発表			調査テーマの決め方(2)	
第6週	調査内容の検討(1) 調査課題の検討			調査課題の設定方法(1)	
第7週	調査内容の検討(2) 調査課題の決定			調査課題の設定方法(2)	
第8週	調査企画の決定(1) 調査仮説の検討			調査仮説の設定方法(1)	
第9週	調査企画の決定(2) 調査仮説の決定			調査仮説の設定方法(2)	
第10週	調査企画の決定(3) 調査項目の検討			調査項目の設定方法(1)	
第11週	調査企画の決定(4) 調査項目の決定			調査項目の設定方法(2)	
第12週	調査企画の発表			調査企画の作成方法(1)	
第13週	質問紙作成(1) 調査項目から質問紙を作成する			質問紙の作成方法(1)	
第14週	質問紙作成(2) 質問紙の決定			質問紙の作成方法(2)	
第15週	プレ調査実施(実査)とデータ入力			調査の実施方法とデータ入力のやり方	
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	調査結果の分析(1)			調査結果の読み方(1)	
第17週	調査結果の分析(2)			調査結果の読み方(2)	
第18週	プレ調査結果による調査企画再検討(1)			調査企画の作成方法(2)	
第19週	プレ調査結果による調査企画再検討(2)			調査企画の作成方法(3)	
第20週	質問紙作成(1)			質問紙の作成方法(3)	
第21週	質問紙作成(2)			質問紙の作成方法(4)	
第22週	本調査実施、集計ソフトの使い方(1)			集計・分析のやり方(1)	
第23週	集計ソフトの使い方(2)			集計・分析のやり方(2)	
第24週	データ入力と単純集計GT(Grand Total)表作成			集計・分析のやり方(3)	
第25週	GT表報告会				
第26週	報告書構成案の検討と集計・分析(1)			報告書構成作成とデータの見方(1)	
第27週	報告書構成案の検討と集計・分析(2)			報告書構成作成とデータの見方(2)	
第28週	報告書構成案の検討と集計・分析(3)			報告書構成作成とデータの見方(3)	
第29週	報告書作成				
第30週	最終報告会				
後期期末試験	実施する				
教科書	『ガイドブック社会調査 第2版』、森岡清志、日本評論社				
参考図書	①『社会調査ハンドブック』、鮎戸弘、日本経済新聞社 ②『マーケティング・サイエンス入門』、古川・守口・阿部、有斐閣アルマ				
評価方法	定期試験の成績を70%、課題を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文献講読 Academic Reading	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	脇田 淳一
授業概要	自然、環境、歴史、産業、企業経営に関する英語文献を講読、発表、レポート提出する。				
到達目標	①英語文献を読解し、内容を深く理解する能力を身につける。 ②自然、環境、歴史、産業、企業経営の国際的状況を理解する。 ③国際競争を勝ち抜く企業経営の考え方を理解する。 ④自然、社会、人文科学分野で使われる専門用語を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	全員を指名するので予習してくる。発表内容のレポートを提出する。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	イントロダクション		英語文献概要と授業ガイダンス		
第2週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ A Trip Around the State		
第3週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ A Trip Around the State		
第4週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Massachusetts's Story		
第5週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Massachusetts's Story		
第6週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Massachusetts's Story		
第7週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Massachusetts's Story		
第8週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Living and Working		
第9週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Living and Working		
第10週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Living and Working		
第11週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Protecting the Environment		
第12週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Protecting the Environment		
第13週	演習1: 環境、歴史、産業について考えてみよう		Massachusetts/ Protecting the Environment		
第14週	演習2: 自然、環境、歴史について考えてみよう		Hemingway in Key West/ Introduction		
第15週	演習2: 自然、環境、歴史について考えてみよう		Hemingway in Key West/ Introduction		
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	演習2: 自然、環境、歴史について考えてみよう(3)		Hemingway in Key West/ Trevor & Morris		
第17週	演習2: 自然、環境、歴史について考えてみよう(4)		Hemingway in Key West/ Hemingway Home		
第18週	演習2: 自然、環境、歴史について考えてみよう(5)		Hemingway in Key West/ Hemingway Home		
第19週	演習2: 自然、環境、歴史について考えてみよう(6)		Hemingway in Key West/ The Navy Yard		
第20週	演習2: 自然、環境、歴史について考えてみよう(7)		Hemingway in Key West/ Hemingway Days		
第21週	演習3: 企業経営について考えてみよう(1)		The Welch Way/ Lead		
第22週	演習3: 企業経営について考えてみよう(2)		The Welch Way/ Get less formal		
第23週	演習3: 企業経営について考えてみよう(3)		The Welch Way/ Face reality		
第24週	演習3: 企業経営について考えてみよう(4)		The Welch Way/ See change as an opportunity		
第25週	演習3: 企業経営について考えてみよう(5)		The Welch Way/ Defy tradition		
第26週	演習3: 企業経営について考えてみよう(6)		The Welch Way/ Pounce every day		
第27週	演習3: 企業経営について考えてみよう(7)		The Welch Way/ Manage less		
第28週	演習3: 企業経営について考えてみよう(8)		The Welch Way/ Rewrite your agenda		
第29週	演習3: 企業経営について考えてみよう(9)		The Welch Way/ Instill confidence		
第30週	総括演習		これまで学習した内容のまとめ		
後期期末試験	実施しない				
教科書	配付資料				
参考図書	Massachusetts, Hemingway in Key West : 瀬谷幸男 南雲堂 The Welch Way : J.A.Krames McGraw-Hill Education				
評価方法	発表20%、レポート80%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文献講読 Academic Reading	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	平塚 力
授業概要	過去50年にわたる情報関連分野の中のエポックメイキングな事柄に関する論文等について学ぶ。				
到達目標	①コンピュータ誕生の経緯を理解し、説明できる。 ②オペレーティングシステムについて理解し、説明できる。 ③プログラミング言語の特徴を理解し、説明できる。 ④ネットワークについて理解し、説明できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-5). (B-3). (D-2). (D-3). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	関連する項目をよく調べること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	コンピュータの発展経緯(1)	算盤、解析機関、チューリングマシン			
第2週	コンピュータの発展経緯(2)	ENIAC, EDVAC, EDSAC, UNIVAC, IBM			
第3週	人工知能(1)	視覚、聴覚			
第4週	人工知能(2)	記憶、認識			
第5週	人工知能(3)	認知、推論			
第6週	人工知能(4)	知性、感情			
第7週	John von Neumannについて(1)	プログラム内蔵方式、EDVAC/ENIAC			
第8週	John von Neumannについて(2)	プログラミングの定義と方法、ノイマン型コンピュータ			
第9週	John von Neumannについて(3)	ゲーム理論			
第10週	Alan Curtis Kayについて(1)	ALTO、Dynabook、PARC			
第11週	Alan Curtis Kayについて(2)	Smalltalk、meta media			
第12週	Alan Curtis Kayについて(3)	Squeak			
第13週	Tim Berners-Leeについて(1)	CERN、NeXT、WWW、HTML			
第14週	Tim Berners-Leeについて(2)	W3C、XML			
第15週	Tim Berners-Leeについて(3)	Semantic Web			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	UNIXについて(1)	開発経緯、特徴、種類、C言語			
第17週	UNIXについて(2)	BSD、SunOS			
第18週	UNIXについて(3)	Linux、Open source software			
第19週	Internetについて(1)	発展経緯、基盤技術			
第20週	Internetについて(2)	サービスの種類、問題点			
第21週	Internetについて(3)	最新技術			
第22週	ソフトウェアについて(1)	プログラミング言語			
第23週	ソフトウェアについて(2)	オペレーティングシステム			
第24週	ソフトウェアについて(3)	アプリケーションソフトウェア			
第25週	電子立国 日本の自叙伝 第1回	新・石器時代 驚異の半導体産業			
第26週	電子立国 日本の自叙伝 第2回	トランジスタの誕生			
第27週	電子立国 日本の自叙伝 第3回	石になった電気回路			
第28週	電子立国 日本の自叙伝 第4回	電卓戦争			
第29週	電子立国 日本の自叙伝 第5回	8ミリ角のコンピュータ			
第30週	電子立国 日本の自叙伝 第6回	ミクロン世界の技術大国			
後期期末試験	実施しない				
教科書	配布資料(プリント)等				
参考図書					
評価方法	課題70%およびレポート30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅲ Second Foreign Language III	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	松江 俊一
授業概要	ロシア語の初級文法全体を習得し、ロシア語の内容を正しく読み取る力を養う。				
到達目標	①名詞、形容詞の格変化の用法(初級レベル)を習得する。 ②動詞及び前置詞の格支配の用法(中級レベル)を習得する。 ③重文、複文の基礎を習得する。 ④多読による語彙力アップを目指す。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(6).				
履修上の注意	言うべきことを単語・句・文のレベルで型に分類して覚え、必要に応じてすぐに口をつけて出るように意識的に訓練すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	第9課(1)	数量性格、сколькoの用法			
第2週	第9課(2)	前置詞(у+生格)の用法、時間の表現			
第3週	第9課(3)	動詞стоитьの用法、形容詞の対格の用法			
第4週	第10課(1)	動詞мотьの用法			
第5週	第10課(2)	動詞идтиの用法			
第6週	第11課(1)	名詞の格変化・与格の用法			
第7週	第11課(2)	形容詞の格変化・与格の用法			
第8週	前期中間試験				
第9週	第12課(1)	чтобыの用法、形容詞の短語尾			
第10週	第12課(2)	仮定法(1)			
第11週	第13課(1)	活動体/不活動体			
第12週	第13課(2)	形容詞の生格と与格の用法			
第13週	第14課(1)	前置詞(о+前置格)の用法			
第14週	第14課(2)	無人称文(1)			
第15週	前期学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却と解説			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	第15課(1)	前置詞(с+造格)の用法、名詞・形容詞の造格形			
第17週	第15課(2)	быть+造格、造格支配の動詞、道具・手段を表す造格			
第18週	第15課(3)	仮定法(2)			
第19週	第16課(1)	前置詞(без+生格)の用法			
第20週	第16課(2)	関係代名詞(1)			
第21週	第17課(1)	形容詞・副詞の比較級			
第22週	第17課(2)	形容詞・副詞の最上級			
第23週	後期中間試験				
第24週	第18課(1)	様々な前置詞と格支配			
第25週	第18課(2)	不定人称文			
第26週	第18課(3)	述語副詞			
第27週	第19課(1)	関係代名詞(2)			
第28週	第19課(2)	無人称文(2)			
第29週	第20課(1)	総合復習			
第30週	後期学習したことの総括	後期期末試験解答用紙の返却、解説			
後期期末試験	実施する				
教科書	第2外国語Ⅰと同様				
参考図書	授業中に指示する。				
評価方法	定期試験70%、課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅲ Second Foreign Language III	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	藪田 美智子
授業概要	フランス語の初級文法全体を習得し、フランス語の内容を正しく読み取る力を養う。 L・Lを利用し、さらに多くの語彙、表現を正しい発音、リズムで習得する。				
到達目標	①フランス語の初級文法を習得する。 ②フランス語の基礎的な単語を習得する。 ③フランス語の基礎的な語彙イディオムを習得する。 ④フランス語の基礎的な会話を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	仏検4級レベルを目指す。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Preparation(1)	アルファベ、挨拶、数字(1~10)、母音・合成母音の発音			
第2週	Preparation(2)	物の名前(男性名詞・女性名詞)、子音の発音			
第3週	Unite 1 - lecon 1	Rencontres の内容理解			
第4週	"	自己紹介、名前の尋ね方			
第5週	"	国籍・職業の尋ね方			
第6週	"	肯定・否定の答え方、性・数一致の用法			
第7週	前期中間試験				
第8週	Unite 1 - lecon 1	動詞の活用: etre, s'appeler, habiter, connaitre			
第9週	Unite 1 - lecon 2	Sympathies の内容理解			
第10週	"	動詞の活用: regarder, parler, ecoutre, lire ...etc.			
第11週	"	不定冠詞・定冠詞の用法、Je voudrais ~の使い方			
第12週	"	数字(11~60)、形容詞の性・数一致の用法			
第13週	"	曜日・日にち・誕生日の尋ね方・答え方			
第14週	Unite 1 - lecon 3	Gouts et preferences の内容理解			
第15週	前期学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却と解説、動詞の活用: aller, faire			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Unite 1 - lecon 3	前置詞とそれに伴う冠詞変化			
第17週	"	動詞の活用: aimer, preferer, avoir, venir			
第18週	"	Il y a ~の文の用法			
第19週	"	疑問・提案・謝罪の表現			
第20週	Unite 1 - lecon 4	Accords et desaccords の内容理解			
第21週	"	時間の表現、動詞の活用: arriver, partir			
第22週	後期中間試験				
第23週	Unite 1 - lecon 4	動詞の活用: entrer, sortir, commencer, finir, savoir			
第24週	"	誘い・依頼の表現、疑問文・命令文・否定文の用法			
第25週	Unite 1 - lecon 5	Surprises の内容理解			
第26週	"	人物描写、形容詞の性・数一致			
第27週	"	si・non での答え方、数字(70~100万)			
第28週	"	疑問形容詞を用いた疑問文			
第29週	"	3人称複数動詞活用、動詞活用の総復習			
第30週	後期学習したことの総括	後期期末試験解答用紙の返却、解説、Unite 1の総復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	Le Nouveau Sans Frontieres 1, CLE / デュボワ辞典、中條屋進他(編)、白水社 / プリント教材				
参考図書	仏検対策4級問題集、白水社				
評価方法	定期試験70%、課題及び小テスト30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ビジネス英語Ⅱ Business English II	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	米本 清
授業概要	英語の文献読解を通じて、国内外の企業動向(他社等との戦い方)事例を学ぶ。				
到達目標	①英文法や構文の基礎力を応用して、概要を理解する。 ②頻出する重要語句を習得する。 ③英語ビジネス文書の意識、分かりやすい日本語への翻訳の重要性を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	事前に資料を配布するので、辞書を使って予習してから授業に臨むこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Who's Afraid of Globalization ?	グローバリゼーションに関する諸説とその考え方			
第2週	Who's Afraid of Globalization ?	グローバリゼーションに関する諸説とその考え方			
第3週	Who's Afraid of Globalization ?	グローバリゼーションに関する諸説とその考え方			
第4週	Who's Afraid of Globalization ?	グローバリゼーションに関する諸説とその考え方			
第5週	Who's Afraid of Globalization ?	グローバリゼーションに関する諸説とその考え方			
第6週	Who's Afraid of Globalization ?	グローバリゼーションに関する諸説とその考え方			
第7週	前期中間試験				
第8週	A Short History of Globalization.	グローバリゼーションの歴史			
第9週	A Short History of Globalization.	グローバリゼーションの歴史			
第10週	A Short History of Globalization.	グローバリゼーションの歴史			
第11週	A Short History of Globalization.	グローバリゼーションの歴史			
第12週	Globalization and Jobs	グローバリゼーションが人々に与える影響			
第13週	Globalization and Jobs	グローバリゼーションが人々に与える影響			
第14週	Globalization and Jobs	グローバリゼーションが人々に与える影響			
第15週	Globalization and Jobs	グローバリゼーションが人々に与える影響			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	A Preview of the MIT Globalization Study	分析フレームの考え方			
第17週	A Preview of the MIT Globalization Study	分析フレームの考え方			
第18週	A Preview of the MIT Globalization Study	分析フレームの考え方			
第19週	A Preview of the MIT Globalization Study	分析フレームの考え方			
第20週	A Preview of the MIT Globalization Study	分析フレームの考え方			
第21週	A Preview of the MIT Globalization Study	分析フレームの考え方			
第22週	後期中間試験				
第23週	Breaking Up the Corporation	各グローバル企業の戦略とその考え方			
第24週	Breaking Up the Corporation	各グローバル企業の戦略とその考え方			
第25週	Breaking Up the Corporation	各グローバル企業の戦略とその考え方			
第26週	Breaking Up the Corporation	各グローバル企業の戦略とその考え方			
第27週	The New American Model	各グローバル企業の戦略とその考え方			
第28週	The New American Model	各グローバル企業の戦略とその考え方			
第29週	The New American Model	各グローバル企業の戦略とその考え方			
第30週	The New American Model	各グローバル企業の戦略とその考え方			
後期期末試験	実施する				
教科書	配布資料				
参考図書	適宜, 紹介する。				
評価方法	定期試験70%、小テスト・課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅳ Second Foreign Language IV	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	松江 俊一
授業概要	第2外国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでのロシア語の知識を活用し、ロシアが抱える諸問題、および日露中韓関係(環日本海関係)について理解を深める。				
到達目標	①第2外国語Ⅲと連携して、日常会話の基礎を習得する。 ②ロシアの文化、歴史の知識を得る。 ③ロシアの政治、経済の現状を把握する。 ④日ロ関係の歴史と現状を把握する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	現代ロシアおよびロシア語圏諸国について幅広い関心を持ち、日頃より情報収集に努める				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	第9課(1)	時間の表現(1)／笑い話、小咄、アネクドート(1)			
第2週	第9課(2)	時間の表現(2)／笑い話、小咄、アネクドート(2)			
第3週	第9課(3)	値段の表現(1)／少数民族の生活(1)			
第4週	第10課(1)	値段の表現(2)／少数民族の生活(2)			
第5週	第10課(2)	数量の表現(1)／自然破壊(1)			
第6週	第11課(1)	数量の表現(2)／自然破壊(2)			
第7週	第11課(2)	お礼とお詫びの表現(1)／経済政策(1)			
第8週	第12課(1)	お礼とお詫びの表現(2)／経済政策(2)			
第9週	第12課(2)	勧めと誘いの表現(1)／ロシアンマフィア(1)			
第10週	第12課(3)	勧めと誘いの表現(2)／ロシアンマフィア(2)			
第11週	第13課(1)	興味と関心の表現(1)／外交政策(1)			
第12週	第13課(2)	興味と関心の表現(2)／外交政策(2)			
第13週	第14課(1)	可能の表現(1)／軍事産業(1)			
第14週	第14課(2)	可能の表現(2)／軍事産業(2)			
第15週	第14課(3)	可能の表現(3)／軍事産業(3)			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	第15課(1)	必要の表現(1)／日露交流史(江戸期1)			
第17週	第15課(2)	必要の表現(2)／日露交流史(江戸期2)			
第18週	第15課(3)	義務の表現(1)／日露交流史(江戸期3)			
第19週	第16課(1)	義務の表現(2)／日露交流史(江戸期4)			
第20週	第16課(2)	難易の表現(1)／日ロ交流史(明治・大正期1)			
第21週	第17課(1)	難易の表現(2)／日ロ交流史(明治・大正期2)			
第22週	第17課(2)	許可の表現(1)／日ロ交流史(昭和・平成期1)			
第23週	第18課(1)	許可の表現(2)／日ロ交流史(昭和・平成期2)			
第24週	第18課(2)	禁止の表現(1)／日ロ交流史(昭和・平成期3)			
第25週	第18課(3)	禁止の表現(2)／日ロ交流史(昭和・平成期4)			
第26週	第19課(1)	依頼の表現(1)／環日本海の貿易の展望(1)			
第27週	第19課(2)	依頼の表現(2)／環日本海の貿易の展望(2)			
第28週	第20課(1)	感嘆の表現(1)／環日本海の貿易の展望(3)			
第29週	第20課(2)	感嘆の表現(2)／環日本海の貿易の展望(4)			
第30週	第20課(3)	感嘆の表現(3)／環日本海の貿易の展望(5)			
後期期末試験	実施する				
教科書	『魔女の1ダース』米原万里著、新潮社 / 他、配布資料				
参考図書	授業中に指示する。				
評価方法	レポート50%、小テスト・口頭試問等50%で評価する。				



授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
第2外国語Ⅳ Second Foreign Language Ⅳ	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	菌田 美智子
授業概要	「第2外国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」でのフランス語の知識を活用し、さらなる発展会話を習得する。 フランス語圏の現代事情・諸問題をビデオ・インターネットを通して学ぶ。				
到達目標	①「第2外国語Ⅲ」と連携して、日常会話の展開を習得する。 ②フランス語圏の文化、歴史について正しい理解を得る。 ③フランス語圏の政治、経済について正しい理解を得る。 ④日仏関係史についての正しい理解を得る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	現代フランス・フランス語圏について幅広い関心を持ち情報収集に努める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	フランスの地理的な位置づけ(1)	ヨーロッパにおけるフランス、海外県事情(1)			
第2週	フランスの地理的な位置づけ(2)	ヨーロッパにおけるフランス、海外県事情(2)			
第3週	フランスの地理的な位置づけ(3)	ビデオ鑑賞			
第4週	仏語、印欧語における名詞の性の成り立ち、意味1	ギリシャ語とフランス語との関係			
第5週	仏語、印欧語における名詞の性の成り立ち、意味2	ギリシャ語とフランス語との関係(2)			
第6週	仏語、印欧語における名詞の性の成り立ち、意味3	ギリシャ神話、哲学からの考察			
第7週	フランスの教育事情	日本との比較			
第8週	フランスの生活事情(1)	物価、住居、医療、食文化(1)			
第9週	フランスの生活事情(2)	物価、住居、医療、食文化(2)			
第10週	フランスの生活事情(3)	物価、住居、医療、食文化(3)			
第11週	歴史(1)	一般			
第12週	歴史(2)フランス革命	世界の三大宣言、人権とは(1)			
第13週	歴史(3) #	世界の三大宣言、人権とは(2)			
第14週	国際関係(1)	日仏交流史			
第15週	国際関係(2)	いわき市との関係			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	フランスの女性問題(1)	歴史的な流れ、女性の権利			
第17週	フランスの女性問題(2)	セクシャルハラスメント			
第18週	フランス文学(1)	文学の系譜、詩の鑑賞、朗読			
第19週	フランス文学(2)	音楽、映画			
第20週	細菌と戦うパストゥール(菌田訳)	朗読、鑑賞			
第21週	西洋思想の流れ(1)	ギリシャ哲学からフランス構造主義(1)			
第22週	西洋思想の流れ(2)	ギリシャ哲学からフランス構造主義(2)			
第23週	西洋思想の流れ(3)	ギリシャ哲学からフランス構造主義(3)			
第24週	西洋思想の流れ(4)	ギリシャ哲学からフランス構造主義(4)			
第25週	宗教(1)	世界の三大宗教			
第26週	宗教(2)	日本と西欧との比較			
第27週	宗教(3)	中東問題			
第28週	宗教(4)	クリスマス、音楽と宗教			
第29週	ディベート	ディベート			
第30週	まとめ	まとめ			
後期期末試験	実施しない				
教科書	第2外国語Ⅲに同じ				
参考図書					
評価方法	レポート40%、リスニング・会話文小テスト30%、口答試験30%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
情報特論Ⅱ Information Seminar Ⅱ	5	1 (30)	選択	後期 週2時間 C	島村 浩
授業概要	情報技術者として必要な基礎的な技術を習得する。				
到達目標	①パーソナルコンピュータの仕組みを理解し、組み立てができる。 ②ネットワークの仕組みを理解し、接続ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (C-1), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:5), 6).				
履修上の注意	実際に作業を行い、その中から技術的なものを吸収すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	コンピュータの仕組み ハードウェアの組み立て ソフトウェアのインストール システムの設定 システムの運用 ネットワークの仕組み ネットワークの基礎知識 ネットワークの基礎知識 ネットワークの基礎知識 ネットワークの基礎知識 イーサネットの基礎知識 イーサネットの基礎知識 イーサネットの構築 イーサネットの運用 ネットワークの運用	主な機能と装置 ハードウェア各種の規格 インストール作業の流れ 設定ファイルの内容 サーバプログラムの設定 ネットワークの種類 情報数学の基礎 物理学の基礎 ケーブルの作成 高速通信 ルータの仕組み ルータの設定方法 実習用ネットワークの構築 ネットワークの管理方法 情報システムの動向			
教科書	配布資料(プリント)、Webコンテンツ				
参考図書					
評価方法	構築実習(機器組み立ておよびその設定)50%、報告書50%で評価する。				